

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10¹⁸m 1 2 3 4 5

326
339

始



26. 3. 24

71461
18

326

328
339

339

~~6228~~
~~937~~

大正七年四月

西比利亞ノ研究 第一編

西比利亞ニ關スル駐露白耳義公使ブユイスレ伯報告書

代筆寫

大藏省臨時調査局金融部

32 X 339

編者序言

寄贈本

西比利亞ノ研究ノ第一著手トシテ先ツ西比利亞ニ關スル元駐露白耳義公使コンラッド、ド、ブニスレ伯ノ報告書ヲ抄譯紹介スルコト、セリ本報告書ハ同公使カ千九百十二年七八月中親シク西比利亞各地ヲ跋渉シ同地方未開ノ寶庫ヲ叩キ其視察スル所ヲ簡潔ニ記述シ以テ將來白耳義商工業家ノ同地發展ニ資スル所ヲ示シ、ナリ本報告書カ僅ニ百餘頁ノ一小冊子ヲ以テシテ繁ニ流レス簡ニ失セス能ク西比利亞米見ノ人ニ同地ノ一般概念ヲ與ヘ得ルノ點ニ付キテハ世既ニ定評アリ倫敦發行ノ露西亞年報 (Russian Year Book) ノ如キハ千九百十六年分ニ至ル迄西比利亞記事ニ關シテハ年々本報告書ヲ引用セリ以テ本報告書ノ價值年所ト共ニ消磨セサルヲ知ルヘシ

本報告書ハ右述アル如ク西比利亞ニ關スル一般豫備智識ヲ與フルヲ目的トシ單ニ西比利亞研究入門ノ第一段階ニ過キヌ同地ノ天然資源、産業、金融等ノ詳細ニ涉レル部局的研究ハ以下編ヲ逐フテ報告スル所アラントス

本報告書ノ記事ハ人口、殖民、農業、畜産、製酪業、林業、毛皮取引、漁業、鑛業、輸出入貿易、交通ノ諸事項ヲ述ヘ最後ニ白耳義人ノ同地方ニ於テ企圖シ得キ事業ヲ摘示セリ其所謂白耳義人ノ西比利亞ニ於テ企圖シ得キ事業ハ直ニ之ヲ移シテ本邦人ニ推奨スルコト能ハスト雖モ亦以テ本邦ノ同地方ニ發展セント

大正
7 5 25
寄贈

欲スル企業家ニ取リ一大好指針タルヲ失ハサルヘシト信ス

大正七年四月



西比利亞ノ研究 第一編

西比利亞ニ關スル駐露白耳義公使プユイスレ伯報告書

目次

第一章	人口及移民	一頁
第二章	耕作	四
第三章	牧畜	五
第四章	森林—輸出木材	一〇
第五章	毛皮、皮革等	一三
第六章	漁業	一六
第七章	鑛産物	二一
第八章	一般商工業—銀行、輸出入	四二
第九章	鐵道及航海	六三
第十章	白耳義人ニ推獎スヘキ企業	六九

備考

露里(五百サーヂェン)

九町四十六間五尺強

デシアチン(二千四百平方サーヂェン)

一町一段四畝八步

布度(四十フント)

四貫三百六十八匁弱

フント(九十六ゾロトニツク)

百九匁一分一毛

第一章 人口及移民

西比利亞ノ原始人種ハ今尙ホ西比利亞各地ニ散在ス、其ノ内キルギーズ(Kirghizes)人ハ一百万以上ニシテステップ(Steppes)地方ニ在リ此人種ハトムスク(Tomsk)及トボルスク(Tobolsk)管下ニ居住セルタルタル(Tartars)人及ブーリアン(Bouliars)人ノ如ク回々教徒ナリ。又ブーリアット(Bouiriates)族及テレングツ族(Telengouts)族ノ如キハ佛教ヲ奉ス、夫ノサモイェード(Samoyedes)トングーズ(Tonghousas)オアシク(Ostiaques)イアクト(Iakoutes)ヴォグール(Vogouls)ギラツク(Guilach)フルド(Gold)オロトホニ(Orotohoni)カリアキ(Kariaki)チウーチ(Tchoutsch)アレウー(Aleout)カムチヤダル(Kamtchaidai)其ノ他ノ人種モ今尙ホ廣大無邊ナル西比利亞各地ニ散在セリト雖モ其ノ大部分ハ極北地帯ニ在リテ「エスキモー」人ノ如キ生活ヲ送り馴鹿ヲ其ノ主タル財産トス。

前記各種族ノ大部分ハ遊牧ノ民ニシテ漁獵ニ從ヒ中ニハ商業及牧畜ニ従事セルモノアリ、キルギーズ及タール兩種族ハ速力及持久力ノ著シク發達セル多數ノ馬匹ヲ有ス。元來蒙古人種ナル是等ノ各種族ハ兵役ニ服セスシテ一般ニ土地ノ所有權ヲ有スルノ特典アルニ對シ西比利亞露國人ハ土地ノ使用ノミヲ許可セラレテ國家之レカ所有主ナリ。各種族ノ生活状態ハ今尙ホ原始人ノ生活ニ似タルモノ大部分ヲ占ムルニ拘ラス露西亞帝國政府ハ甚タ是等ヲ尊重シ舊制度ニ依リ親切ナル法規ヲ以テ彼等ヲ取扱ヘリ。

西比利亞露國人ハ一部ハ流刑ノ罪人―其ノ内ニハ固ヨリ多數ノ犯罪者アリタル―ノ子孫ヨリ成リ一部ハ好ンテ逐放セラレタルモノヨリ成レリ、斯ノ如ク各村落ヲ形成セルモノハ舊囚人又ハ其ノ家族ニシテ犯罪統計ノ示ス處ニ依ルニ犯罪ノ率ハ今日ト雖モ母國ヨリ高キ状態ナリ。而カモ一面ニ於テ隸農制度ハ曾テ西比利亞ニ存在セシコトナキ結果トシテ同地住民ノ性質ハ之レヲ歐露各村ノ住民ニ比シテ更ニ獨立ヲ尙ヒ更ニ活氣アリ同時ニ又富有ナリ、然レトモ村落ノ裡、猶太商人ハ到ル處優越ナル地位ヲ占メ農民ニ種子、農具ヲ貸與シ收穫物ヲ買收セリ。

人口稀薄ニシテ地域ノ廣キニ鑑ミレハ、現時ニ至ル迄、西比利亞ノ土地ノ先住者ニ用役セララル、ハ事物自然ノ勢ナリ。然レトモ最近、特ニ露國農民ノ規則的移民ノ設定以來千八百九十六年乃至千八百九十八年ニ及ヒ各村ニ土地ノ共有ヲ認ムルニ至レリ。露本國ニ在リテハ歐露ニ存在セシ隸農制度廢止以來此土地共有制度ハ既ニ存在シテ故ストリピン (Stolypine) 氏ノ起草シ曩ニ一部地方ニ適用セラレタル最近ノ法律ニ依リ露國ハ共有地分割ヲ認メ各分割地占有者ニ對シ完全ナル所有權ヲ特許スル要件ヲ規定シタリ。西比利亞ニ對シテモ之レト同一ノ方針漸次行ハレ、緩慢ナリト雖モ村民ノ希望ヲ容レツ、アリ、而シテ此方針ハ左ニ述ヘントスル移民制度上甚々當ヲ得タルモノト認メ得ヘシ。

約二十年以來露國政府ハ露國農民ノ秩序的西比利亞移民ヲ獎勵指導セリ、此移民ハ多クハ小露地方ノ者ニシテ、二等汽車賃ノ四分ノ一ノ賃金ニテ輸送セラレ、農具及種子購入ノ爲メニ三百留以下ヲ給與セラ

レ、農用機械ノ購入ニハ特別ノ便宜ヲ附與セラレタル外、男子移住民一名ニ就キ十五「デシヤーチン」ノ土地ヲ充當セララル、規定ナリ。各村落ノ共有地分割最大限度ノ面積モ亦是レト同一ニシテ此ノ如クシテ取得セル所有地域ハ之レヲ賣却スルコトヲ得ス、移民ノ數ハ年約五十萬人ナリシカ千九百九年ニハ七十萬人ヲ超過シ千九百八年ニハ七十五萬人ニ達シタレトモ其ノ四分ノ一乃至五分ノ一ハ再ヒ歐露ニ歸還スル計算ナリ。西比利亞鐵道敷設以來移住民ノ數ハ著シク増加シ、昔ハ彼等ハオデツサヨリ浦鹽ノ道ヲ採リタルモノナリ、尙ホ黑龍江鐵道工事作業ノ爲メ十萬人ノ工夫送ラレシカ多數ハ其ノ地ニ留マレリ。要スルニ西比利亞ノ人口ハ年ニ三割ヲ増加スルニ對シテ露本國ノ人口ハ二割ノ増加ナリ。

露國政府ハ最近ノ法規ニ依リ一部ノ露國臣民(官吏等)ニ對シ二箇年内ニ開墾及建築ヲ爲ス條件ニ於テ低額土地販賣ヲ爲シ得ルニ至レリ。茲ニ注意スヘキハ外國ノ會社及猶太人ハ論理上西比利亞ニ土地ヲ所有スルコト能ハサルコト是レニシテ、鑛山採鑛ニ關シテハ後章別ニ説明スヘシ。

西比利亞ノ哥薩克人ハ特別制度ノ利益ヲ享有ス、抑モ同種族ノ西比利亞ニ來リシハ同地征服當時ヨリノ事ニシテ、今日ハウラルヨリ太平洋ニ到ル南部國境一帶ニ分散ス、内地ノ住民ハブーリアツト族 (Bourjates) ノ如キモノモ哥薩克村落ニ入籍スルヲ條件トシテ其ノ兵役團ニ登録セラレ、制規ノ兵役ノ外男子ハ十八歳以上六十歳迄政府ノ召集ニ應シ馬匹ヲ供給セサルヘカラス、然レトモ他方ニ於テ哥薩克人ハ他ノ農夫ヨリ遙カニ多クノ土地ヲ受ケトランスバイカル (Transbaikal) 哥薩克人ハ男子一名百

「デシヤーチン」以內ノ土地ヲ有シ共有地分割ニ於テモ十五「デシヤーチン」ノ處ヲ三十「デシヤーチン」宛
與ヘラレツ、アリ。

四

第二章 耕作

穀物ノ耕作ハ特ニ西比利亞ノ西部ニ發達シ、主タル耕作物ハ裸麥、小麥、大麥及燕麥ニシテ、收穫ハ不定ナ
リ。昨年ノ如キトボルスク及トムスク兩縣下ニ屬シ東方ノヴオ、ニコライエフ (Novo-Nikolaiev) ニ到
ル地域ノ如キ凶年ノ歲ヲ送リシ一方本年ハ意外ノ豐年ナルハ本官ノ馬車及馬上ヨリトボルスク縣下ニ
於テ親シク實見セル處ナリ。耕作ニ使用セラル、土壤ハ一般ニ歐露ノ地質ヨリ豐饒肥沃ニシテ、西比利
亞ノ東西共大農式ヲ採リ、機械ヲ使用シ、各村々民ハ原野ノ共同開墾ニ從事セリ。
農業ノ迅速ナル發達ト露國農民ノ組織アリ規則アル移民トハ善ク協調シ就中亞麻ノ耕作ハ極メテ注意
深キ耕植ヲ爲シ、立派ナル成績ヲ示シ、歐露ニ麻糸ヲ輸出スル程進歩セリ。

セミパラチンスク (Semipalatinsk) 及アルタイ (Altai) ノ南方ニハ綿花ヲ産シビイスク (Bisk) 及
セミパラチンスクニ來レル派出商人ハ綿花ノ買入ヲ目的トシテ此地ニ來レルモノナリ。

西比利亞ノ穀物輸出ハ主トシテ露國ニ仕向ケラレオデッサハ西方特ニ英國及伊太利方面ニ對スル西比利
亞產穀物ノ輸出中心地ニシテ浦鹽斯德ヨリハ千九百十一年ニ二十六萬五千布度ノ穀物ヲ輸出シ西比利亞

鐵道モ西方國境ニ平均年約千五百萬布度ヲ輸送セリ。ヴオ、ニコライエフヨリ倫敦ニ輸送セラル、穀
物ハ一布度五十五哥ニシテルヴアル (Revel) 及リバウ (Liban) ヲ通過スルモノハ七十哥ナレトモアル
カンジヘル (Arkhangel) ヨリベレンツ (Berezov) ニ到ル鐵道完成セハ一布度二十四哥ヲ値スルニ過
キサルヘシ。

第三章 牧畜

耕作地帯ニ飼育セラル、畜獸ハ一部ハ東部西比利亞ニ輸出セラル、東部西比利亞ニハ蒙古ヨリモ供給
ヲ受クレトモ西比利亞產ノ肉質ヲ優レリトス。乾酪ノ生産地方ハ亦優秀ナル家畜ノ産地ニシテステップ
地方ノベトロバヴロスク、アトバザール間ハ最モ著名ナル牧畜地ナリ。

獸種ハ他種ノ交配ナキ結果トシテ甚タ退化シ、結核極メテ猖獗ナリ。牝牛ハ小ニシテ乳量少ナリト雖モ
乾酪ヲ多ク含有ス、牡牛ノ肉ハ濠洲ヨリ輸入セル、モノヨリモ其ノ價更ニ高シ。

肉類ノ輸出ハ未タ組織的ニ發達セス、九月ヨリ十二月ニ互リテ西比利亞各中心地ニ行ハレ、歐露ニハ軍
隊ノ需要ニ應スル爲メベトロバヴロスク及ノヴオ、ニコライエヴスクヨリ多量ニ移出セラレ、東部西比
利亞ニハ浦鹽、カバロヴスク (Khabarovsk) 及ニコライエヴスクヲ經テ年約二萬噸ノ肉類輸入アリ。

西比利亞ノ豚ハ纖弱ニシテ結核ニ冒サレ、市俄古市スウイフト會社ノバルナウール (Barnaul) ニテ

行ヒタル検査ノ結果ヲ信シ得ルモノトセハ百分ノ五乃至一八ハ結核豚ナリ、同會社ハ一、二年間英國ニ「輕豚」又ハ「食用豚」ト稱スルモノヲ輸送セシカ、成績面白カラサリキ。最上ノ豚ハ矢張り乾酪工業ノ盛ナル地方ニ生産シクルガン (Koungan) ハ其ノ主要ナル集散地ニシテ又、食用豚ノ主産地ナリ、同市ニ在ル、Union Cold Storage 會社ハ宏大ナル冷蔵庫ヲ有シ、英國ニ輸出ヲ營ミツ、アリ。

各牧畜中心地ハ家畜及馬匹ノ皮革ヲ露國及外國ニ出スト共ニ馬鬚及豚ノ柔毛ヲ輸出セリ。

鳥類其ノ他獵獲物モ亦輸出セラレ、千九百九年ニハ約三百萬留、千九百十年ニハ四百萬留近クノ輸出アリタリ。

馬匹ノ飼育ハ未タ科學的ニ組織セラレス、各市ニ於ケル標本馬ハ露本國產「トロッター」ニ酷似シ、遊牧民タルステツプ地方ノキルギーズ人及定居民タルトボルスグ縣ノタルタール人ハ多數ノ飼養ヲ爲セトモ其ノ馬格ハ矮少ナリ然レトモ、速力及持久力ハ著シク發達ス、蒙古ノ小馬モ亦同一ニシテ此馬種ハ國境哥薩克各村ノ輸入スル處ナリ。

乾酪工業——最近西比利亞ニ起リタル此工業ハ既ニ顯著ナル發達ヲ爲シ、之レノ勃興セル地方ハ著シク富有トナリタルヲ目撃ス、西部西比利亞鐵道沿線ノ地方ハ即チ是レニシテ該地方ノ住民ハ一年五千萬留以上ノ合計利益ヲ收メツ、アリ。

本官ハ最近東部西比利亞四州ノ總督ト會見シ、バイカル湖東ノ地中ニ藏スル金鑛ノ多量ナルヲ語リタル

ニ對シ總督ハ「金鑛ノ採掘ハ少數人士ノミヲ富マスニ過キス、予ハ住民全體ヲ需フス各種ノ工業就中西部西比利亞ノ乾酪工業ノ如キモノ、勃興スルヲ希望スル者ナリ」ト答ヘタリ。

乾酪工業ノ範圍ハ概ネ西比利亞鐵道線ニ沿ヒ、クールガンヨリノヴオ、ニコライエフニ互リオムスクヲ中心地トス。セミバラチンスク州ニ在リテハ是レヨリ南方更ニ二百乃至三百露里ニ及ヒ、生産中心地ヲクールガン及バルナウールトシ、バルナウール及ビイスクノ乾酪ハノヴオ、ニコライエフニ集中ス。トボルスグ縣下ニ於テモ乾酪ノ輸出ニ著手シイエチブ、エカテリナンプールダ鐵道 (Iochib-Ekaterinenbourg) 完成セハ更ニ商況ヲ發達セシムヘシ。

乾酪生産各中心地ニ於テ仲買商ハ農民ヨリ乾酪ヲ購入シ丁抹人主トシテ其ノ局ニ當リツ、アリ、露本國派出商人ハ外國市場トノ關係未タ丁抹人ノ如ク全カラサルモノアリ爲メニ後者ノ如ク成功セス。一部ノ商人ハ農民ヨリ牛乳ヲ購入シテ乾酪ヲ作り、他ノ商人ハ村民ノ創立セシ生産組合ヨリ村民自身ノ作りシ乾酪ヲ購入ス、此生産組合ハクールガンニ於テ最モ發達シ「西比利亞乳酪同業組合 (Union des Laiteries coopératives de Sibérie) 又ハ「西比利亞乾酪共働生産組合」(Union des astels producteurs de beurre en Sibérie) ハ支所ヲベトロバヴロスク、オムスク、バルナウール、ビイスク、カメンニ置キ伯林ニ出張所ヲ有シ倫敦ノ代理店ハロンスデール會社ナリ又漢堡ニモ一箇ノ代理店アリ。農民ハ國家ノ農業技師ノ助力ニ依リ共同生産組織ノ獎勵ヲ受ケツ、アリト雖モ其ノ生産品ノ直接輸出

ニ關シテハ未タ仲買トノ競争ニ困難ヲ感スル状態ナリ、又生産組合ニ使用セラル、出稼人ハ多ク丁抹人ナリトス。

乾酪ノ検査及改良ヲ圖ル爲メ官憲ハ和蘭レード試験場ニ倣ヒトムスク、バルナウール、セミパラチンスク、カインスク、オムスク、クールガン各地ニ乾酪試験所ヲ設置セリ。

露本國ハ乾酪ノ最大市場ニシテ(就中聖彼得堡、莫斯科及オデッサ)英國及獨逸之レニアク。乾酪ハ一般ニコペンハーゲンニ輸送セラレ同地ニ於テ選擇ノ上倫敦其ノ他獨逸ノ大都市伯林、漢堡等ニ輸送セラ、モノトス。

或ル年飢饉ト獸畜ノ傳染性感胃ノ爲メ乾酪ノ輸出減少セシコトアリ、茲ニ於テ人即チ價格ノ高キアルヂヤンチンヌ上質乾酪ヲ使用推賞セシコトアリシモ、事實上西比利亞乾酪ハ農夫ノ注意シテ壓搾ヲ施セルモノニシテ、倫敦ニ於テハ法規上水分ノ百分比ハ全量ノ一割六分以下トシ脂肪率モ亦高カラシメラレタリ、夏期ニ生産セラレタル乾酪ハ其ノ質最モ善キニ拘ラス貯藏困難ノ爲メ其ノ價格ハ低廉ナリ。歐洲ニ輸出スル乾酪ハ一般ニ鹽藏ニシテノヴォ、ニコライエフ以西ハ歐洲ニ到ル特設急行列車アリテ、夏期ハ毎日一回發車シ冬期ハ回数ヲ減スルコト屢ナリ、該列車ハ聖彼得堡、リバウ又ハリガヲ通過シ、貯藏車ニハ氷ヲ置き、氷ノ備付アル停車場ニ於テ氷室ノ補給ヲ行ヒ、現今西比利亞ニ於テハ此種ノ冷藏車(白色貨車)千四百四十四臺アリテ乾酪ノ輸送ニ用井ラレツ、アリ、クールガンニハ唯一ノ冷藏庫アリ

多量ノ乾酪肉類及鳥卵ヲ貯藏スルノ能力アリ。

乾酪ハ樞ノ桶ニ入レテ輸送セラレ一桶三布度半アリ、此桶ハ「パラピン」紙ニテ之レヲ包袋シ、「パラピン」紙ハ莫斯科附近ノ一商店ヨリ供給セラレ莫斯科迄ノ運賃代價一布度十一留ナリ、此十一留ニ別ニ運賃一布度ニ付キ一、六〇留ヲ加フルヲ要スルヲ以テ外國ノ「パラピン」紙ノ競争ハ到底不可能ナリ。

乾酪ノ價格ハ原產地ナル西比利亞各倉庫渡一布度十二留乃至十三留半ニシテ、仲買ハ一布度ニ付三十哥乃至一留五十哥ノ手数料ヲ得、農家ノ手ヲ離レタル乾酪ハ途中ニ溶解シ自然其ノ量目ヲ減少スルコト少シトセス、例ヘハバルナウールヨリノヴォ、ニコライエフノ間ニ於テ三日間ハ無氷ノ儘ニ輸送セラル、状態ナリ。

西比利亞乾酪ヲ倫敦ニ送ルニハ諸掛リヲ加ヘテ一布度一留三十哥ヲ要シ漢堡迄ハ同シク一留二十哥ヲ要シ一般ニ運賃先拂ノ輸送取扱ニ依ルモノナリ。

西部西比利亞ヨリ年々輸出セラル、乾酪ノ合計ハ四百萬布度以上ニシテ其内極西乾酪産地ノ生産量ノ七割五分ハ同業組合ノ生産ニシテバルナウール及カマン地方生産量ノ六割極東ノヴォ、ニコライエフ地方ノ二割モ亦同業組合ノ生産ナリ。

西比利亞ノ輸出乾酪(概數)——千九百年百五萬布度、千九百三年百七十萬布度、千九百六年二百九十七布度、千九百七年三百四十萬布度、千九百八年三百四十萬布度、千九百九年三百五十萬布度、千九百十年三百

二十五萬布度、千九百十一年四百三十萬布度、千九百十二年ノ豫想高ハ四百五十萬布度ナリ。

千九百十年ニ於ケルリガ港ノ輸出ハ二十九萬七千布度ニシテ聖彼得堡ハ六十九萬八千布度ヴィンドー(Windau)ハ二千二百五十九布度ヲ示シ、夏期ハ每週平均四萬五千桶ノ輸出アリ。

左ニ乾酪輸出ニ從事スレ、西比利亞ノ主タル商店ヲ擧クレハ

Siberian Company; Danish-Siberian Company; Randrup; Lund & Petersen; Fient

ニシテ各クルガン、オムスク、バルナウール、ピイスク、カインスク、ノヴォ、ニコライエフ、タ、ルスカイ
アニ營業所ヲ有ス。

右商店ノ内一軒ニハ一年以來白耳義人ノ出稼人ヲ使用スレトモ現在ニ在リテハ彼等ハ多ク丁抹人又ハ瑞典人ナリ、其ノ内二三軒ハ別ニ獵獲物ノ貿易ニ從ヒ冬期歐洲ニ之レヲ輸出セリ。

第四章 森林—輸出木材

全亞細亞森林ノ二分ノ一ハ實ニ西比利亞ニ在リ、地方ニ依リ野生ノ熊、狼、狐、馴鹿、兔、森鷄、權木、鷄、松、鷄、鴉、鴉等モ住ミ、大森林ハ多ク未タ斧鉞ノ入ラサル爲メ、其ノ總面積ハ得テ之レヲ知り難ク、森林ノ大部分ハ官有財産官衙即チ國家ノ所有ニシテ森務省ノ管轄下ニ在ル森林ハ二億二千八百十八萬九千「アークルト」稱スルモ、同省自カラ、黑龍江及沿海兩州ノ森林面積ヲ五億九百萬「アークルト」推算セリ、又「アークルト」

「アークルト」(Arktusk) 地方ノ處女林ハ約九千萬「アークルト」推算セラレ、森務省ノ管轄下ニ屬スル地帯ハ漸次増加シツ、アルノミナラス西比利亞中軸地方ニハ未タ殆ント知ラレサル森林地帯アリ、其ノ中最モ大ナル森林ハ西部西比利亞ニ於テ「ハイエニセイスク」(Ternisak) 政廳ノ所屬ニシテ、東部西比利亞ニ在リテハ沿海州政廳ノ管轄ナリ、一般ニ西比利亞森林ハ、兩亞米利加ノ森林ノ如ク濃密ニ非スシテ白耳義地方ニ比シテ生長ノ度又甚タ遅シ。

宮内省所管林以外ノ森林ハ悉ク官有財産官衙ノ管轄ニシテ、西比利亞森林地帯ノ一部ハ向後行政上各林野管區ニ分割セララルヘシト雖モ、地域ノ非常ニ廣キ爲、規則ノ嚴正ナル適用ヲ期シ難ク、近年ニ至ルマテ農民ハ其ノ占有地附近ノ伐木ヲ爲スモ、何人モ之レヲ禁スル者無キ狀況ニシテ、遠隔セル各村村落ヲ隔ツル無邊ノ地ニ於テ一本ノ孤立樹ヲモ容易ニ見難ク、其ノ光景摩洛哥ノ原野ニ髣髴タリ、曾テ樹影ヲ村落ニ映スル爲メ、命令ニ依リ、各家ニ植樹ヲ爲サシメシモ、今ヤ既ニ死法ニ歸シ加フルニ西比利亞鐵道通過地ノ如キハ、伐木地ノ幅員數基米突ニ及ヒ其ノ會々尊貴保存セラレタル部分モ亦山火ノ爲メニ漸次絶滅スルニ至リタリ、西比利亞ノ官憲ハ可成多數ノ地點ニ於テ、輪伐ノ制度ヲ立ツルニ努メ、此地園ニ於テハ伐木ハ或ル種ノ制限ノ下ニ個人及會社ニ許可セララル、モ一方土地分割制度ノ漸進ト共ニ農民ニ附與セラレタル地域ニ於テハ占有者ハ其ノ耕作ニ必要ナル程度ニ應シテ伐木シ之レヲ販賣スルヲ得ル狀態ナリ。森林開拓權ハ一定年限ニ對シ特許ニ依リテ取得スルヲ得、沿海州ニ於テハ政廳ハ時々浦鹽斯德

及カバロヴスクニ於テ一地方ノ樹木伐裁權ヲ競賣ス。

西比利亞森林ノ商業上ノ眞價值タルヘキモノハ赤色柏香樹及白色柏香樹(建築ノ良材)黄色松(滿洲松ト稱スルモノ)檜、秦皮樹、天鷲絨樹等ニシテ、トボルスク政廳管下ノ柏香樹林ハ就中廣大ナル地域ニ互リ、東部西比利亞及樺太ニハ「バルブ」ノ良材ヲ産ス。

浦鹽斯德ハ木材輸出中心市場ニシテ、同港ハ既ニ歐洲ニ挽板及角材ヲ輸出セリ而シテ濠洲ニ輸出スルモノニ對シテハ同國ノ加工木材ニ對スル課稅ノ爲メ樹幹ヲ截斷スルコトナシ、千九百十一年ニ於ケル浦鹽斯德港ノ輸出木材ハ滿洲ヨリ通過輸出セラル、モノヲ除キ建築用材ノミニシテ百二十萬布度ニ達シタリ。

浦鹽斯德港ノ附近オカイアンスクノスキデルスキー(Skiel'sky)商會ハ多大ナル木材貿易ヲ爲シ特ニ海外輸出ノ爲メニ置場及荷役場ヲ設ケブリネル(Bryner)商會及山林事業ヲ營メルグロスネッオフ(Kousnetzoff)會社モ木材貿易ニ從事セリ、是等ノ者ノ浦鹽斯德ニ於テ本官ニ語リシ處ニ依ルニ輸出ニ際シテハ注文ニ對シ三割乃至四割ノ先拂金ヲ受ケ殘額ハ船積ノ時ニ支拂ハル、モノナリ、製材所ハ黑龍江沿岸特ニブラゴヴェチエンスク(Blagovetchensk)ニ多數アリ。

近來柏香樹ノ輸出ハ西部西比利亞ヨリスルモ大ナル利益アルコト分明トナリタル結果始メテ葉卷煙草函用トシテ英國ニ輸出セラル、ニ至レリ、トムスク政廳財務官憲ハ其ノ管下森林ヨリ年々輸出ニ供用シ得ヘキ柏香樹ノ量ヲ六萬立法呎ト推算シ、此數字ハ一年一百萬立方呎迄増加スヘク一立方呎ノ價格

ヲ十九乃至二十三哥ト採算セリ。

現今迄西比利亞ニハ「バルブ」ノ製造業ナク、東部沿岸ノ森林ニハ莫大ナル貯藏アリ、故ニ木工業ハ大ニ見込アリ同地多數ノ水流ハ所要ノ原動力ヲ供給スヘシ。

浦鹽斯德ヨリハマツチ軸木トシテ「白木」ノ日本向輸出ハ規則的ニ行ハレツ、アリ。

西比利亞木材ハ主トシテ軟木ヲ生産セサル英國、獨逸、丁抹、埃太利諸國ニ輸出セラル、モノトス。

第五章 毛皮、皮革等

毛皮貿易ハ殆ント全部イルピット(Irbid)ニ集中セリト言フヲ得ヘシ、同市ハエカテリナンブルヨリ遠カラサルベルム(Berim)政廳管下ノ小市ニシテ年々一月末ヨリ三月一日迄市場ヲ開設ス、其ノ重要ナル程度ヨリイルピット、ニズニ、ノヴォゴロッド、ライプテッヒノ順序ナル此三市場ハ實ニ全世界ノ毛皮ノ價格ヲ左右スル處ナリ、歐洲及亞米利加ヨリハイルピットニ派遣商人ヲ送り莫斯科及世界ノ最モ遠隔セル地方ヨリ生産品ヲ同市ニ送り來ルヲ常トシ、同地市場ノ取引高——同市場ニ於テハ又織物及鐵等ノ取引アリ——ハ千九百十年一期ニ八百二十五萬三千留即チ千九百九年ニ比シ二百萬留ノ増加ナリ。

西比利亞鐵道カ同市場ノ繁榮ヲ殺滅セシハ勿論ニシテ、露國及外國ノ商人ハ漸次内地ヲ巡回シ村落ヨリ村落ヲ訪ヒテ毛皮ヲ買入レツ、アリ。事情此ノ如クナルヲ以テイルピットヲベルム、シウーマン線ニ

連絡スルノ問題ヲ生シ又市場ヲ鐵道沿線ノ一市ニ移サントノ議アリ。然リト雖モイルピッドハ今日迄毛皮ニ於テハ尙ホ世界第一ノ市場ニシテ、毛皮ノ數量ハ千九百十年ニ於テ栗鼠ノ皮六百萬枚、野兎ノ皮二百萬枚「モルモット」ノ皮六百萬枚、極地猫(ポール、キャット)ノ皮二十五萬枚、黃鼠ノ皮二十萬枚、狐ノ皮四萬枚、猫ノ皮五萬枚、黃鼬ノ皮一萬枚、西比利亞貂ノ皮一萬枚ナリ。千九百十年ニ於テ西比利亞ヨリ輸出セラレタル毛皮ハイルピッドヲ經テライプチックニ送ラレタルモノ五割同シク、同市ヲ經テ倫敦ニ送ラレタルモノ三割又直接倫敦ニ送ラレタルモノ一割三分又直接ライプチックニ送ラレタルモノ七分ナリ。イルピット市ニ於ケル毛皮取引ノ最近三箇年間ニ於ケル價格ヲ磅ニテ現ハセハ千九百九年ニハ六十五萬三百六十磅、千九百十年八十八萬五千四百磅、千九百十一年七十六萬五千七百磅ナリ。西比利亞北方ノ北極狐ハ西比利亞貂ト共ニ年々減少シ、千九百十二年以來三箇年間全帝國ニ於テ貂ノ狩獵及販賣ヲ禁止セシ爲メ、現今其ノ皮ハ一枚五十留ナリシモノハ百乃至百五十留トナルニ至レリ、又千九百十年以來イルピットノ市場ニハ千九百九年ニ十二萬枚ナリシモノ漸ク一萬枚ノミ提供セラレテ、而テ上質ノ貂ノ皮ハイアクローツク政廳ノサモイエード(Samoyédes)人ノ供給スル處ナリ。狐ノ皮ハ需要少ク、東察加ノ狐ノ皮ハ一枚二十一留、イアクローツクノ皮ハ一枚一八乃至一九留ニテ販賣セラレルトモ、黒色及銀狐ノ皮ハ貂ニ亞テ最モ貴重ナル毛皮ナリ。

上質ノ黃鼠ノ皮ハバラビンスク(Barabinsk)及イシム(Tshim)ヨリ産出シ、品質精良ナル栗鼠ハバイカル湖岸ニ産シ、普通モノハトムスク政廳管下ノバルナウール及ビイスク附近ヨリ産出ス。其ノ外主トシテ東察加ヨリ産出スル二種ノ川獺アリ、又海狸及麝香鼠等アルコトヲ知ラサルヘカラス。黒龍江地方ヨリ聖彼得堡ニ輸送セラレ、毛皮ハ年約三百萬留ニシテ大部分ノ毛皮ハ浦鹽斯德ニ集中セラレテ支那ニ輸出セラレ、白色兎ノ皮ハ亞米利加ニ向ケラレ、染色ニ容易ナルヲ以テ利益甚タ多シ、又鐵道沿線ノ西部西比利亞就中トボルススク及トムスク兩政廳管下ノ大牧畜中心地ナルカンスク、グラスノイアルスク(Krasnoiarsk)、アチンスク(Atchinsk)、ミヌーシンスク(Minoussinsk)、カインスク(Kainisk)、ペトロバヴロスク等ハ牡牛、牝牛、山羊、馬ノ乾燥皮ヲ輸出シ、其ノ大部分ハ夏期大市場開催ノ二箇月前莫斯科及ニズニ、ノヴォゴロッドニ輸送セラレ、モノトス。粗製皮ノ輸出ハ千九百十年ニハ六百萬留以上減少セリ、千九百十一年ニ於ケル浦鹽港ノ輸出統計ニ依ルニ牛其ノ他ノ皮革ハ二萬八千四百四十六布度ヲ示シタリ。主トシテミヌーシンスクヨリ送付セラレ、馬鬚及豚ノ柔毛ハ殆ントニズニ、ノヴォゴロッドニ集中セラレ、豚ノ柔毛ハ一布度約百四十留ニテ販賣セラレ(一等品)ミヌーシンスクノ一商人ハ年々三十萬留ノ羊毛ヲベルムニ輸送シ、住民使用ノ毛氈製長靴製造ニ使用セラレ、外同市四五ノ商人モ亦多量ノ羊毛ヲ販賣ス。

第六章 漁業

一六

西比利亞ノ漁業ハ北氷洋、太平洋(オコツク海及東察加ヲ含ム)樺太及バイカル湖並ニ諸河川ニ於テ營マルレトモ、冷蔵輸送ノ方便未ダ備ハラズ。西比利亞産魚類ヲ歐洲ノ市場ニ規則的ニ送付スルコト能ハサル結果今日迄多ク歐羅巴ノ注意ヲ喚起スルニ至ラサル状態ナリ。

漁獲物ノ主ナルモノハ鮭、鱒、鱈、鱚、小蝶鰈等ニシテ鯨、海猪及海豹ノ如キハ極メテ僅少ナリ。

千九百七年ノ日露條約ニ依リ三十六箇ノ港灣及浦鹽斯德附近ヲ除キ太平洋漁業權ヲ外國人ニ許可スルコトトナリタレトモ河川漁業ハ依然露國ノ保留スル處ナリ。漁業權ノ特許ハ一年二年五年ヲ期限トシテ、競争入札ニ付シ、年平均二千留ノ特許料ヲ納付シ、被特許者ノ八割ハ日本人ニシテ其ノ他ハ露國人ナリ。

鮭ノ漁獲ハ最も主要ナルモノニシテ沿海州、東察加、樺太、諸河川ニ於テ此種ノ收穫年四千萬尾在リ、其ノ中「クマ」(Keta)「ゴルゴニシヤ」(Gorbusha)「ネルマ」(Nelma)「タイムネ」(Taimené)「ロソシナ」(Lossosina)等ノ品類アリ其最上種タル「クタ」ハ夏秋ノ候ニ漁獲セラレ秋期ノモノハ最も良質ナリ。

冷蔵庫及冷蔵船ノ設備殆ント備ハラサルヲ以テ輸出魚類ハ一般ニ鹽漬ナリ、鹽漬ニハ露國式及日本式アレトモ日本式ノ簡ニシテ迅速ナルニ如カサルナリ、漁獲ノ大部分バ日本ニ送付セラレ(千九百十年ニハ一億六千五百二十八萬一千六百斤)殘部ハ殆ント全部地方的消費ニ用ヰラレ又歐露就中莫斯科及聖

彼得堡ノ消費ニ充當セララル、モノトス、冬期ニ在リテハ鐵道運賃ノ割引アルヲ以テ、黑龍江域ノ冷蔵魚ハ容易ニ露國ニ送付セララル、ヲ得ヘシ。

西比利亞ヨリ輸出セラレタル魚類ノ合計數字ニシテ本官ノ現ニ有スルモノハ千九百九年度ノモノ即チ百五十七萬二千二百九十一布度ナリ生魚及冷蔵魚ハ一尾ヲ以テ計算シ鹽漬魚ハ布度ヲ以テ計算ス而シテ夏期ノ「クタ」ハ一尾ニ乃至五哥ニシテ秋期ノ「クタ」ハ十乃至十二哥ニ達スルコトアリ今ヨリ十年前迄ハ鮭ノ卵子「紅卵」(Caviar rouge)ト稱スルモノハ之レヲ放棄セシカ今ハ歐露ト盛ンナル取引ノ目的ナリ。

河川漁業ノ内黑龍江域ノ漁業ハ最も重要ニシテ其ノ生産ハ或ル點迄沿岸住民ノ盛衰ヲ支配セリ。其ノ最初ノ組織ハ約四十年前以前ニ起リタレトモ、顯著ナル發達ヲ爲シタルハ千八百九十二年頃日本ニ輸出ヲ開始スルノ時ヨリ始マリタルモノナリ。黑龍江ハ一年ノ内半ハ結氷シ、黑龍江ノ鐵道開通セハ自然西方輸送ヲ容易ナラシムヘシ。

黑龍口ノ河口ナルニコライエヴスクハ太平洋岸ニ於ケル漁業ノ中心地ナリ、千九百十年同地ニ於テ鮭三千八百萬尾ヲ漁獲シ(他ノ統計ニ依ルニ三千二百萬尾)一尾平均十六乃至三十二斤ナリ。又千九百九年ニハ二千六百萬尾ヲ捕ヘ、半部ハ鹽漬トシテ日本ニ送付セラレタリ。歐洲ニハ冷蔵鮭約三十四萬四千尾ヲ輸送シ、露本國ノ分ヲ加ヘ歐洲ニ送付セラレタル鮭ノ斤量ハ二百萬布度ニ達シタリ、又紅卵ノ生産ハ八萬二千八百三十三布度ニシテ、本官ノ有スル爾餘ノ統計ハ前後矛盾セルヲ以テ茲ニ之レヲ示スル

一七

ニ足ラサルナリ。

鱒魚ノ漁獲ハ鮭ニ比シテ著シク少量ニシテ輸出ハ極少ニ非サレハ皆無ナリ、「ブルーガ」(Belouga)ト稱スル品類ハ其ノ形他ニ比シテ肥大ナリ。

今日ニ在リテモ冷蔵設備其他ノ無キカ爲メ、本漁獲物ノ大部分ハ放棄セラル、状態ナリ。魚類商業ニ従事セル商店ハ

Galitanine; Weinermann(ex-Nadietzki); Lavroff; Nebel & Co; La Compagnie de Commerce et d'industrie du Volga et de l'Amour.
ナリ。

ハバロヴスク港ニ於テ漁獲セラレタル鮭ハニコライエヴスクニ於テ捕ヘラレタルモノニ比スレハ流レヲ遡ル努力ノ爲メ其ノ體量ヲ減シテ不良ナリ、之レニ反シ紅卵ハ最モ佳ナリ、此地モニコライエヴスクノ如ク鮭ノミヲ輸出シテ鱒魚ヲ願ミサル状態ナリ。

浦鹽斯德ノ漁業ハ比較的重要ナラサルナリ、但シ鍊ニ關シテハ頗ル盛シナリ、同港ハ日本、西比利亞、露本國ニ魚類ノ輸出ヲ爲シ、千九百十一年ニ於ケル合計輸出數量ハ十二万九千七百二布度ヲ示シタリ。千八百九十年頃ニ至ル迄、東察加半島ノ漁業ハ頗ル無意味ナリシカ日本人ハ千九百七年ノ日露條約ニ依リテ之レカ道ヲ拓キ、千九百十年ニ於テ日本人ハ東察加及オコック沿岸ニ二百二十七箇所ノ漁場ヲ有シ露

國人ハ二十二箇所ヲ所有セリ。東察加ノ漁撈ハ五月ヨリ十月ニ至ル五箇月間ニシテ、暴風到ル處ノ海濱ニ魚類ノ層ヲ築キ高サ六呎ニ及フコトアリ。然レトモ土地ノ事情ニ通セサル爲メ資本家ノ最近ノ計畫ハ失敗セリ。夫ノサルモ Salmo 會社ノ如キ千九百七年魚類ヲ積込ム爲メ一隻ノ船ヲ東察加ニ送りシカ、該船ハ季節外ニ到着シ所期ノ積荷ノ漸ク三分ノ一ヲ積ミテ出帆シ、他ノ二隻ノ派遣船ハ積荷トシテ準備セル魚類ノ洪水ニ奪ハレタル爲メ、悲惨ナル失敗ニ終リタリ。東察加ニ於ケル主ナル漁業家ハ Gruchetski & Co; Kobritz & Denhigh; Far East Fishing Company(ex-Svidersky) ナリ。

右ノ内、後ノ二者ハ其ノ鹽藏生産品ノ大部分ヲ日本ニ送付シ冷蔵魚類ヲオデッサ及リガニ輸送シ軍事的補給ニ従事ス。歐洲ニ輸出セラル、魚類ハ罐詰トシテ輸送セラレウースト(東察加)ニ罐詰ノ一製造所アリ。本官ノ現ニ有スル統計ニシテ本官ノ未タ完全ナラズト認ムルモノニ依ルニ千九百十年ノ期節ニ於テ東察加、オコック海及樺太ノ漁獲ハ三百六十一萬五千尾(日本漁業ヲ含マス)ニシテ魚類二十五萬二千四百三十三布度、紅卵四萬五千六百五十七布度ハ露本國ニ送ラレ、魚類二十一萬二千六百五十四布度ハ日本ニ輸出セラレタルコトヲ示シタリ。

樺太島ニ關シテハ、參考トシテ、何等ノ責任ヲ負ハス、ニコライエヴスクノ對岸ナル樺太ニ在ル漁業會社ノ所有主二名ヨリ本官ニ與ヘラレタル報告ヲ左ニ示スヘシ。

此報告ニ依ルニ彼等ハ漁場設備ノ爲メ築造物及動産ニ十五萬留前後ヲ支出シ、年々ノ作業費(給料、鹽、樽、材料等)ハ十三萬留ヲ要シタリ。

又漁獲物ノ年産ハ魚類十二萬乃至十五萬布度、紅卵五千乃至六千布度ヲ上下シ、共ニハバロヴスク及浦鹽斯德ヲ經テ露國ニ鹽藏輸送セラル、モノトス。而シテ純益ハ魚類一布度ニ付キ五十乃至六十哥、紅卵一布度ニ付キ四乃至五留ナリト言フ。兩氏ハ歐洲輸出ノ爲メ倉庫ヲ建築シ、冷蔵汽船ヲ購入セント希望セリ。氏等ハ此汽船ヲ期節中樺太ニ碇繋シ、漁獲魚類ヲ冷蔵シ、秋期此船ヲ以テ歐洲ニ輸出ヲ營マントスル計畫ヲ有シ、魚類漁獲高ヲ一年十五萬布度ニ達セシメ、紅卵ヲ一萬布度トシ内六萬布度ノ魚類(鹽藏)ヲ露本國ニ送り、九萬布度ヲ歐洲ニ輸出シ(冷蔵)紅卵一萬布度ヲ露本國ニ輸送(鹽藏)シ得ルコトヲ希望セリ。

漁場ニ於テ一布度十哥ノ魚類ハ歐洲ニ於テ十二留近キ價格ヲ有スルヲ根據トシ氏等ハ總經理ノ外、冷蔵船維持費ヲ控除スルモ利益年收多大ナルヲ認メ、該船ノ見積價格三十萬乃至四十萬留ノモノヲ購入スル爲メ共同投資者ヲ物色シツ、アリ。

鰻テ松花江ノ漁業ハ農民及土著民ノ手中ニ在リ。

レナ(Léna)・イエニセイ(Iénisséi)・オブ(Ob)其ノ他諸大河ノ魚類ハ主要ナル商業ノ目的物ニシテ「ロツシナ」及「タイムネ」ト稱スル品類ノ鮭、鱒魚、鱒等ヲ輸出ス。

イエニセイスク市ハ河川漁獲魚ヲ集中シ、冬期冷蔵シテ西比利亞鐵道ニ依リ、グラスノイアルスクヲ經テ聖彼得堡及莫斯科ニ輸送ス。イエニセイ河産ノ魚類ハ二千五百噸ニ上リテ輸出セラル。トボルスク及トムスク管下ニ於テモオブ、及イルチシュ(Irtych)兩河ノ漁場アリ冷蔵魚ヲ西方ニ輸出ス。バイカル湖ニ在リテハ頗ル貴重ナル魚類就中「オムール」(Omul)ナル魚ヲ産ス。

ナリム(Narim)(トムスク管下)ニハ魚類雜誌大製造所アリ、既記セル如ク魚類雜誌工業ハ例外トシテ西比利亞ニ存スルノミ、惟フニ後來有利ナル一資源トナルニ至ルヘシ。

第七章 鑛産物

一金

古來西比利亞ハ金ノ豐富ナル地トシテ識ラレ、是レニ關スル記録ハ悉ク誇大視スヘキモノナク、金ノ鑛脈ハ無數ニシテ此地方ノ「金鑛地方」ト稱セラル、モノ寔ニ故ナキニアラサルナリ。然ルニ之レニ對スル世界ノ注意ハ極メテ近時ニ至リテ喚起セラレ、外國人ノ此富源開拓ニ參加スルノ希望ヲ起セシハ漸ク此頃ニ始マレリ。元來露西亞帝國政府ハ世界各方面ヨリ來レル金鑛探索者ノ侵入ヲ憚ハサレトモ、今日ニ於テハ鑛山ノ探掘ハ事實上外國人ニ不能ノコトニアラス。外國人ハ露國法律ニ準據シ、露國人職員ヲ事業ノ主腦者トシ事業指導ノ局ニ當ラシムル條件ニ從ヘハ、此事業ノ會社ヲ組織スルヲ得ヘク現ニレ

ナ金鑛會社(Grande Compagnie des mines d'or de la Léna)ノ如キハ事實ハ英人ノ經營ニシテイエニセ
イスク管下ニハ佛國及獨逸ノ會社アリ。

外國人ハ鑛業的企業ヲ創立スルヲ得ト雖モ、沿海州、樺太、イエニセイスク管下ノウーシンスキ州ニ對シ
テハ特別ノ許可ヲ必要トス。此許可ハ内閣會議ノ左右スル處ナリト雖モ要スルニ鑛山開拓ノ希望ヲ有
スル資本家ハ鑛業各規則ヲ參照シ、複雜ナル各箇ノ條件竝ニ納付金ニ關シ詳細ナル調査ヲ爲サ、ルヘ
カラス。

英國人ハ現ニ外國人中最も重要ナル特許ヲ獲得セルモノニシテ、チタニ代理者ヲ置キ各地鑛山ノ監督
ニ任セシム。西比利亞ノ高級官憲ハ同地金鑛ニ白耳義資本ノ投下セラル、ヲ希望スル旨ヲ本官ニ屢次
言明セリ。

プリアムールスキ(Priamourski)縣知事ノ本官ニ語ル處ニ依ルニ知事ハ西比利亞カ最も外國ヲ利シ、金
ノ西比利亞ヨリ國外ニ流出セス、露國勞働者及内地製機械ヲ使用スルヲ條件トシ外國人ノ鑛山開拓ヲ
寛大ニ取扱ヘル旨ヲ以テセリ。

アルタイ地方(トムスク縣)トランスバイカリー地方(バルグージンヌ「Barghouzine」郡ヲ除ク)ニ於テ
ハ大部分ノ金鑛ハ宮内省ノ所有ニシテ小部分ノミ國家ノ所轄トス。

宮内省ノ所有セサル地方ノ金ハ今日自由ニシテ、即チ金ノ購買及輸送ハ政府ニ對スルモノ、ミニ嚴ニ

限定セラレサルニ至レリ然レトモ政府ノ試驗所ハ提出ニ係ル一切ノ金ヲ購入セサルヘカラス、是等ノ試
驗所ハ西比利亞ニ七箇所アリ千九百十一年ニ溶解セル量ハブラゴヴェチエンスク(Blagovetchensk)試
驗所五百二十八布度、ボダイボ(Bodaiho)試驗所一千六布度、イルクローツク試驗所二百八十六布度、ゼース
キア(Yeskia)試驗所七十二布度、クラスノイアルスク四十二布度、ニコライエヴスク試驗所百四十一布
度、トムスク試驗所百四十六布度合計二千三百二十一布度ナリ。

ブラゴヴェチエンスクニハ別ニ民間試驗所二箇所アリ、西比利亞及ウラルノ各民間試驗所ニテハ年八
百布度ヲ溶解ス。

鑛業會社創立ニ際シテハ勅許ト共ニ種々ノ條件ヲ附帶ス被特許者ハ一種ノ「勅許狀」ヲ交付セラレ、定款
ハ地方鑛業行政官憲及鑛務省ニ提出スルヲ要ス。官有財産官憲ヨリ特許セラレタル鑛山ニ於テハ稼業
者ハ採掘セル金ノミノ所有者ニシテ國家ノ土地ハ讓與スヘカラサルモノトス、鑛山採掘權ハ官有財産
官憲及宮内省共之レヲ讓渡スルヲ得ルモノニシテ、宮内省ノ金鑛採掘權讓渡一十五、二十年又ハ其ノ以
上ヲ期限トスルニ對シ年納金ハ砂金ナルカ又ハ鑛石ナルカニ依リ其ノ金額ヲ異ニスルモノナリ。ク
ラスノイアルスク縣試驗所長ノ本官ニ譯文ヲ供シタル千九百二年一月六日ノ法律ニ依ルニ曰ク

「ウエルシユネウチンスク、ボルクヂン、セレンシンスク及トロイツコサヴスク境域ニ於テ官有財産官憲
ヨリ許可セラレ又ハアルタイ及ネルチンスクニ於ケル宮内省所管各郡ヨリ採掘セル金(溶解セルモノ)

ハ左ノ税金ニ從フヘキモノトス。年産一布度ニ對シ五分。其ノ以上ノ生産ニ對シ初期探掘一布度ニ五分
 爾餘ニ一割、五布度以上ノ生産ニ對シ、初期一布度ハ五分次ノ三布度ニ一割、爾餘ノモノニ對シ一割五
 分トス、又前記境域及各郡ヨリ産出シ鑽石ヨリ得タル溶解金ハ一割ノ稅ヲ課セラル、モノトス
 精確ニ検査スルヲ得サル一統計ニ依ルニ、現今西比利亞ニ於ケル金ノ探掘所ハ六百六十四件ニシテ三
 萬人ノ労働者ヲ使用セリ。

商工務省ノ公報ニ依ルニ露國(ウラル及西比利亞)各金産地ニ於ケル千九百十年ノ砂金生産額ヲ千九百
 九年ノ砂金生産額ニ比較セハ左表ノ如シ。

	一九一〇年	一九〇九年	増加(一九一〇年)
ウラル	五五二・〇三	五〇四・二二	布度フント 四七・二二
西部西比利亞	三二六・二七	二九一・二六	三五〇・一
東部西比利亞	一、七六九・〇三	一、六〇二・二〇	一六六・二三
計	二、六四七・三三	二、三九八・二七	二四九・〇六

露國ノ砂金合計生産額ハ千九百十年ニ於テハ千九百九年ニ超過スルコト二百四十六布度六フント即
 チ約一〇・四%ナリ。

前表ノ數字ノ内宮内省探掘所ハ合計百九十八布度二八フントノ探掘ニシテ之レヲ地方別ニスレハア

ルタイ郡二十二布度二八フント、ネルチンスク郡(Nertchinsk)百七十五布度三〇フント即チ千九百九
 年ニ比シ二十七布度二八フントノ増加ナリ(一六・二%ニ相當ス)。
 又鑛務省所屬探掘所ニ於ケル産金額ハ二千四百四十九布度五フントニシテ之レヲ千九百九年ニ比ス
 レハ二百三十三布度二二フント即チ一〇・五%ノ増加ナリ。
 然レトモ前記ノ數字ハ單ニ各鑛山ヨリ採收セル砂金量ノ中單ニ官憲ニ登録セラレタルモノ、統計ナリ、探掘
 量ノ多大ノ部分ハ官憲ノ統計ヨリ脱漏セルコト左記個人ノ溶解所ニ交付セル金ノ數量ヨリ立證シ得ヘシ。
 若シ此提出金量ヲ打算ニ加フレハ千九百十年ニ於ケル産金量ハ左表ニ依リテ之レヲ現ハスヲ得ヘシ。

	一九一〇年	一九〇九年	増加(一九一〇年)
ウラル	六四一・三四	五二七・二二	布度フント 六九・二二
西部西比利亞	四一五・三四	三五五・〇一	六〇・三三
東部西比利亞	二、八二七・三五	二、五四〇・〇二	二八七・三三
計	三、八八五・二三	三、四六七・一五	四一八・〇八

金ノ生産ハ間接ニ産金各郡ノ民衆ヲ富マシムルニ過キス、知事ゴンダッチ(Gondatti)氏カ本官ニ對シ、
 西部西比利亞ニ現ニ存在スルカ如キ、有利ナル乾酪工業ノ東部西比利亞ニ勃興センコトヲ希望スル旨
 ヲ語リシハ又此理由ニ依ルモノナリ。

一般ニ金鑛ハ極メテ寡少ナル比例ニ於テ採取セラレ、金ノ生産ハ殆ント全部何等高價ナル設備ヲ要セサル、流砂式ニシテ、最モ盛大ナルレナ金鑛會社自身モ現在迄砂金洗滌ニ操業ヲ限定セル狀況ナリ。ステツプ地方ニハ金ノ鑛床豊富ナリ、今ヨリ漸ク二箇月前露國ノ新聞ハ當時企テラレタル調査ノ好結果ナリシヲ傳ヘ、最近ニ至リ白耳義人及佛國人モ蒙古國境ニ於ケルザイザン(Zaisan)郡ニ同一目的ノ踏査ニ從事シ、アクモリンスク(Akmolinsk)郡竝ニセミパラチンスク(Semipalatinsk)郡(主トシテ石英ノ)ニ於テハ特許ヲ得タルノミノ四株式會社アリ、採石ニ從事セリ。

トボルスク縣下ニ於テモ、特ニイレチツシユ河ノ支流コンダ(Konda)河邊ニハ鑛床存在スト信スヘキ理由アリ。

トムスク縣ノ金鑛ハアルタイ郡ニ於ケル官有財産官憲及宮内省所有鑛山ト同様ニ會社又ハ個人ニ對スル採掘特許權ノ目的トナルヲ得ヘクトムスク縣廳ノ本官ニ與ヘタル情報ニ依ルニ去ル一月一日現在ノアルタイ郡ニ於ケル個人特許件數ハ四十七件ニシテ其ノ大部分ハ未タ採鑛ニ著手セス、其ノ中採鑛々區ノ一ハチュルヌ、エ、タキシス伯(Comte Thurn et Taxis)ニ屬シ他ノ一鑛區ハシヤネ(Jannet)氏ノ所有ナリ。

宮内省所有鑛山ヨリ採掘セル金ハ大藏省ノ特別ノ許可ニ依ルニアラサレハ輸出スルコトヲ得ス。チスール(Tissoul)ノ附近ナルベリクール(Berikoull)ニハ石英金鑛ノ鑛床アリ。

マリイインスクノ南方ケイヤ河岸ニハ「共同西比利亞採鑛會社」(United Siberian Exploitation Co.)ニ特許セラレタル、重要ナル砂金洗滌場アリ、世評ニ依レハ同社ハ一部ヲ他ノ諸團體ニ轉貸ス。

本官ハ西比利亞鐵道チアルギン停車場ノ南方七ニ露里ナル石英金鑛ヲ視察セリ、同金鑛ハ「ベリクルスキー、ルドニツク」(Berikulsky Rudnik)ナル名稱ヲ有シ「マリシエフ、エ、ロヂロフ」(Malischeff & Rodikoff)商店ノ所有ニシテ、同商店ハ同地方ニ於テ他ニモ多クノ鑛區ヲ有シ、本官視察ノ鑛區ハ一時露國砂金會社「Compagnie Russe des Lavages d'Or」ニ轉貸セルモノナリ。鑛脈ハ幅平均一米突ニシテ深ク地中ニ侵入ス。石英ハ壓榨空氣鑽穴機ニテ穿タレ、「ダイナマイト」信管ニ依リテ爆破セシメラル、破片石英ハ之レヲ碎鑛所ニ廻付セラレテ大ナル水槽ニ入り、水槽中ノ銅鐵製「ローラー」ニ依リテ粉碎セラルルモノトス。此水ハ水銀ヲ塗リタル銅製傾斜面ノ上ヲ流レ、水中ノ金ハ沈澱シ、水銀中ニ層ヲ作り、此層ヲ削リ、之レヲ壓榨シ、鐘内ニ容レ熱ヲ加ヘテ水銀ヲ蒸發セシメ、水銀ハ金ト分離シ、新タニ沈澱ス、此水ハ「シアンカリ」(クミー)(Oyankah) Keyヲ加ヘテ第二ノ處置ニ移リテ亞鉛末ヲ通過シ此亞鉛末ヲシテ殘レル金ヲ吸收セシム。

含金水ノ初期處置ニ依リ石英百布度ニ付キ粗金十二留ヲ得ヘシ最モ普通ニ行ハレ且ツ最モ簡單ナル處置ハ砂金ヲ單純ニ洗滌スル方法ナリ。

イエニセイスク (Ienisséisk) 縣ノアチンスク (Atchinsk) クラスノイアルスク (Krasnojarsk) イエニセ

イスク (Iensk) 、ニズネウヂンスク (Nijnoudinsk) 、ミューシンスク 各郡ニ金鑛アリ、又南方イエニ
セイ地方ニハ極メテ豊富ナル鑛床發見セラレ、ニ至レリ。

官憲ノ本官ニ交付セシ統計ニ依ルニ、本縣ハ金ノ採鑛所一九〇箇所ヲ有スルモノ、如ク(鑛床ハ漸ク七
分ノ一ヲ知り得タルノミ)其ノ内三四箇所ハ外國人ノ營業ナリ。

七月中人ノ本官ニ語ル處ニ依ルニ、クラスノイアルスク (Krasnoarsk) ヨリ遠カラサル地ニハ特ニ有利
ノ條件ニ於テ、採金所ノ賣却スヘキモノアリ、同所ニ到ルニハイエニセイ河ニ依ルヲ得ヘシト(本件ニ
關シテハトムスク (Tomsk) ノアレキサンドル、シウエダルスキー (Alexandre Schwedersky) ニ照會ス
ヘシ)。

クラスノイアルスク (Krasnoarsk) ノ試験所ニ於テ本官ハ金ノ試験ニ用井ラル、一般ノ處置ヲ參觀セ
リ。見本ハ骨炭ノ小坩堝内ニ置カレ、之レニ加熱シテ酸化物ヲ溶解シ、純粹ノ金塊ヲ殘留ス。

イルクーツク (Irkutsk) 縣就中其ノ首府ニ於テハ鑛山問題ハ一部分間接ニレナ地方ノ採鑛談ニ集中セ
ルノ觀アリ、同地方ノ産鑛ハ本河川ニ依リイルクーツク市ニ積出スヲ得ヘク、同市及其ノ周圍ニ於ケル
商業ハ皆此鑛業ヲ基トシ物資ハ陸續トシテレナ河ニ依リテ集散ス。

イルクーツク (Irkutsk) 及イアクーツク (Iakutsk) 兩縣ニハ合シテ所有者ノ知レタル鑛床五百八十五區
アリ其ノ内千九百十一年ニハ百七區ハ採鑛ニ著手セラレ、採鑛量ハ約九百六十八布度ナリ。本工業ハアト

ール、ヴィチム、オレクミン二郡ニ分布セラレ後ノ二郡ニ於ケル鑛山ノ大部分ハレナ金鑛會社 (Compagnie
de l'or de la Lena) ノ所有ナリ。前記ノ材料ハイルクーツク縣知事ノ本官ニ交付セラレタル覺書ヨリ拔萃
セルモノナリ茲ニ其ノ好意ヲ謝ス。

レナ各鑛山ハレンスコイ (Lenskoi) 、ヴィチム及オレクミン 兩郡ニ在リキレンスキー郡内最近ノ郵便
電信局所在地ボダイボ (Bodaiho) ヨリ一〇露里ノ處ニ在リ。

各鑛山ノ面積ヲ細説セハ個人ノ所有ニ屬スルモノ二万二千三百二十七「デシャーチン」特許ニ依リ所有セ
ルモノ一万一千三十一「デシャーチン」賃貸ニ依ルモノ六千二百七十四「デシャーチン」ナリ。含金砂ノ採
集量ハ一九〇九—一九一〇年ニ於テ五万七千三百三十八布度千九百十一年一月一日ヨリ六月一日迄ノ期間
ニ四萬八千六百十布度ニシテ金ノ採收ハ一九〇九—一九一〇年ニ於テ七百八十三布度二十八「フント」
ナリ。又此採收金ノ爲メニ支拂ヒタル金額ハ同年度ニ於テ千四百六十七萬五千三百九留ナルヲ以テ純
益ハ六百八十一万二千九百二十五留ナリ。之レヨリ計算スルニ採金費ハ一布度二万四百五十二留ナリ而
シテ市場ニ於ケル金一布度ノ價格ハ一万八千七百七十九留ナリ、一九〇九—一九一〇年ニ於ケル労働者ノ
延日數ハ百六十四万三千七百二十四トス。又使用蒸氣及電力ノ馬力ハ二千六百二十馬力ナリ。
是等ノ馬力使用ノ工場ハ千八百九十六年ノ創立ニシテビエロゼロフ (Mielozeroff) 氏ヲ總支配人トス。
同社ノ株式所有者ハ主トシテ英人ナリ。

此外ウイリウイー河岸(レナ河ノ支流タル)及チヨナ河邊(ウイリウイー河ノ分流ナル)ニモ新タニ鑛床ヲ發見シ、露人技師既ニ現場ニ赴キタリ。

トランスバイカリー(Transbaikalie)ノ未來ハ鑛坑ノ開拓就中金、即チ金鑛石及砂金ノ採收ニ在リ、其ノ洗滌場ハ各州ニ現存ス。鑛區ノ大部分ハ宮内省ニ屬シ、同省ハシルカ(Chilka)ノ北方ニ於テ自カラ之レヲ經營セリ、外國人ハ勅許ニ依リ支那國境ニ沿ヒ約百露里ノ幅ヲ有スル周縁ニ於テ開拓ニ從事スルヲ得ヘク、其ノ最モ顯ハル、モノハアマザール(Amazar)河岸ナルカサコフスキー(Kasakofsky)及ノウヴァトロイスク(Novotroisk)ニマテ、兩地ハストレテンスク(Stratensk)ノ附近ネルチンスク(Nertschinsk)ヨリ遠カラサル地方ニ在リ、其ノ内一採鑛所ハ英國人ノ所有ナリ。最モ鑛石ニ豐富ナル地ハリストヴエニクニー(Listvenichny)ノ附近ニシテ、バイカル湖岸ノ金鑛採掘ニ從事セル者佛國ノ二會社其ノ他多數アリ、夫ノサイアンスク金鑛會社(Compagnie des mines d'or de Sayansk)ハ佛人ノ經營ナリ、鐵道停車場ナルトウリンスキー(Tourinski)ヨリ六十五露里ノラザルト(Razirt)ニハ金ノ鑛床アリ、今ニ購入者ヲ待チツ、アリ。

黑龍江州内ニ於テ既ニ世人ニ知ラレタル金ノ鑛床及採鑛所ノ外、同名ノ河岸シルカ(Chilka)河トノ合流地ヨリ左岸ニ沿ヒテ新タナル鑛脈ヲ發見スルニ至レリ。此地ハカバロヴスク市ニ到ル迄全部金産地ニシテ最モ主要ナル鑛山ハゼイア(Zeia)及ブーレイア(Boureia)兩河ノ流域ニ在リ、由來黑龍江ノ河

豐富ニ金ヲ擁スルコトハ世上ノ定論ニシテ、セレムジユ河ヲ遡リテブラゴヴエチエンスクノ附近ニハ露國及英國資本ノ採鑛所アルヲ發見ス(ラ、セレムジスキ會社)(La Selenjiski Co)。

黑龍江州ノ産金額ヲ示セハ、千九百九年ニハ五百十三布度半ニシテ、千九百七年ニハ五百四十七布度千九百八年ハ五百七十七布度、千九百九年ニハ五百五十九布度又千九百十年ニハ六百八布度合計二千八百四布度半ナリ。

曩ニ述ヘシカ如ク本州ニ於テモ金ハ西比利亞ノ大部分ノ如ク自由ナレトモ實ハ千九百年以來ノ事ニシテ、其ノ以前ニ於テハ金、購買及輸送ハ嚴罰ヲ標榜シテ政府ニ保留セリ、傳フル處ニ依ルニ爾後金ノ工業ハ正ニ三倍シタリト。

鑛石ハセレムジフ(Selenjof)スィヤ(Beia)ブーレイア(Boureia)各河ニ依リテブラゴヴエチエンスク(Bla-govetchensk)ニ送付セラル、同地ニハ二箇所ノ試験所アリ、其ノ内二箇所ハ銀行ノ所有ニシテ一箇所ハ政府ノ所有ナリ。本官ハ此官營試験所ヲ視察セシカ、千九百十年ニハラ、チトヴァ會社(La Tchitova Co)ヨリ十四布度、ラ、エンツォヴァ會社(La Yentsova Co)ヨリ四十三布度、ラ、ミランツコ、ビーレンスカ會社(La Mirantsko-Bhrenska Co)ヨリ二十八布度、ラ、ブロードヴィ、コヴァ會社(La Brodovi-Kova Co)十布度、ラ、ニエニセレムジンスキ會社(La Nijnie Selenjinski Co)二十五布度、高部アマール會社(La High Amour Co)百一布度、其ノ他ノ會社及個人三百七布度合計五百二十八布度ナリ。

ブラゴヴェチエンスク探金工業委員會書記ハ本官ニ一個ノ覺書ヲ交付セリ、左ニ之レカ要領ヲ示スヘシ曰ク。

「黑龍江州及其ノ流域ニ於テ十年以來資本ハ漸次缺乏ス、政治上ノ紛糾(支那ト接近セル爲メ)ハ經濟的生活ノ平衡ヲ破リ、資本家ヲ脅カシ、爲メニ資本家ハ黑龍江州ノ市場ニハ進ンテ其ノ金錢ヲ送付シ來ラサルニ至レリ。固ヨリ探金工業ハ探鑛地ノ遠隔セル爲メ極メテ長期ノ信用ヲ必要トシ、産金従事者ノ手形割引ハ、個人ニ於テモ將タ亦銀行ニ於テモ手数料ヲ加ヘ、常ニ、一年十五%又ハ其ノ以上ニ達シタリ。

然レトモ黑龍江州ノ鐵道完成シ、金産地方ノ豫定道路網開通セハ、輸送費ハ輕減セラレ、資本家ノ信用モ漸次恢復スヘシ、其ノ時ニ到ラハ輸送ハ更ニ迅速トナリ、運賃ハ一布度平均四十哥(兩極端ヲ十五哥ヨリ七十哥ニ及フモノトシテ)ニ過キス、生産者ハ其ノ手形支拂ノ爲メ以前ノ如キ期間ノ必要ヲ感セサルニ至ルヘシ、而シテ探金工業ノ收入ハ一布度ニ就キ二千五百留ヲ増加スヘク、黑龍江線ノ開通ト共ニ金ノ生産亦倍加シ、採金地ノ價格ハ百分ノ六十八騰貴シ、各般ノ事情ハ外國資本家ヲ刺激スルニ至ルヘシ。

沿海州ノ全沿岸ニ於テオコツク海(恐ラク更ニ上部ヨリ)ヨリ浦鹽斯德ニ到ル地域ハ、金ヲ擁セル地ナリ。昨年英國ノ技師等ハポポフ會社(Popoff)ノ爲メニコライエヴスク(Nikolajevsk)市附近ヲ調査セリ。同市

ノ近郊ニハ同州ノ重要ナル砂金探鑛所アリ、有限オルスク金鑛會社(Orsk Goldfields Ltd)ハ其ノ所有ナルオコツク(Okhotsk)鑛山ニ於テ、一基ノ發掘機械ト二箇ノ米國製浚砂機トヲ使用セリ。又同市トブラゴヴェチエンスク(Blagovetlensk)トノ中間ニハ政府所有鑛床ノ最モ大ナルモノアリアマール金鑛會社(Société de l'or de l'Amour)之ヲ稼業シアマグーヌ會社(Compagnie d'Angonne)又之レニ從ヒツ、アリト。

鐵道線ノ東方カバロヴスク(Khabarovsk)ト浦鹽斯德トノ中間、イマン(Iman)河岸ニハ、産金地帯アリ、露國及英國ノ技師最近踏査ヲ行ヒタリ。黑龍江沿岸ノボベル、オヂヤル(Bobel-Odjai)ニハ鐵ヲ多分ニ含有セル金銀鑛アリ。初期設備ノ費用ハ百五十萬留ヲ要スル見込ニシテ獨逸人ハ既ニ或ル種ノ提供ヲ爲シタリト雖モ、白耳義資本家ノ提議ヲ希望スル旨ノ意見アリ、獨逸ニ於ケル分拆ノ結果、鑛石一噸ニ付金二瓦銀二十五瓦ヲ含ミ、金ハ外部ニ在ルコト判明セリ。

提議佛國人ニ致サレシモ、浦鹽斯德附近ノ採金業ノ投資ハ其ノ拒絶ニ會シタリ。思フニ獨逸人ハ代リテ其ノ提議ヲ受諾スヘク、元來獨逸人ハ西比利亞ニ於テ金、白金、鉛等ニ著眼シ鐵ハ多ク注意ヲ爲サ、ルモノ、如シ。

二 銀

西比利亞ノ銀鑛ハ銀價格ノ低落セル爲メ殆ント更ニ開拓セラレサル現況ニシテ、アルタイ(Altai)地方

ノミニシテ二千以上ノ礦山アルニ係ラス採鑛セラル、モノハ漸ク二十箇所ニ過キス。セミバラチンスク(Semipalatinsk)ノ北方モ亦頗ル銀ニ富ミ、トランスバイカリー(Transbaikalie)ニモ銀及鉛鑛決シテ少カラサルナリ。ボベル、オヂヤル(Bobel-Odjal)ヨリ二百露里程ノカヴァロヴスク(Khabarovsk)地方ニハ鑛脈(鐵ヲ交ヘタル銀鑛)多ク又同市ト浦鹽トノ中間海岸ヨリ一露里ノ處ニ鑛脈アリ。此海岸ノ鑛山ハ毫モ開拓セラレタルコトナク浦鹽ヨリ遠カラサルオルガ附近ニモ、將ニ開通セントスル鐵道ニ近ク一鑛山アリ。

舊ノ試驗所ハ多ク作業ヲ中止セリ。昔シハ銀ニ交ハレル鉛ハ運賃大ナルノ故ヲ以テ曾テ顧ミス、カテリヌヌ(Catherine)二世時代ニトランスバイカリーノチタ(Tchita)地方ニ於テ漸ク一年銀十噸ヲ産セシノミ。

千九百十年ニ於ケル銀ノ價格ハ一露斤(四〇九瓦五一一)二十三留四十哥ナリ。

二 銅

ノヴォ、ニコライエフ(Novo-Nikolaiet)——トムスク(Tomsk)バルナウール(Barnouil)——クローネツク(Konnetzk)ノ鑛脈地方ニハ多量ノ銅鑛床アリ、又セミバラチンスク(Semipalatinsk)ノ東北方就中イルチシエ(Irtysh)河岸ノパヴロダール(Pavlodar)附近モ亦銅ニ富ミタリ。スパスク(Spask)及アトパザール(Atbasar)ニ於ケル英人經營ノ一會社ハアクモリンスク(Akmolinsk)縣ニ重要ナル鑛坑ヲ有シ、イエニ

セイスク(Tenisstisk)縣下ニ於テモ銅ヲ産シ浦鹽斯德ノ北方ニモ鑛床アリ。傳フル處ニ依ルニ銅ノ輸入禁止ヲ解カレテヨリトランスバイカリーニ於テハ銅ノ採掘ヲ中止セリト、今千九百十年ニ於ケル西比利亞ノ銅産ヲ見ルニ全部西部西比利亞ヨリ産シタルモノ二十萬六千八百八十九布度ヲ示シタリ。

四 鉛

鉛ハ輸送困難ヲ主タル理由トシテ毫モ採掘ヲ見ス。浦鹽ノ北方ニハ多數ノ鑛床特ニ銀鉛鑛床アルハ人ノ既ニ知ル處ニシテ、此地方ノ鑛坑ハアルタイ(Altai)及セミバラチンスク地方ト共ニ概ネ稼業セラルト雖モ産額萎靡振ハサルモノアリ。

千九百十年ニ於ケル西部西比利亞産ノ鉛量ハ二千八百七十三布度ニシテ價格ハ一布度二留二十九哥乃至三留ナリ。

五 黒鉛

イルクーツク(Irkoutsk)縣内ブーカオヴァ(Boukakhova)河ノ附近及ツーキン(Toukine)連山中ニハ多クノ黒鉛アリ、又ブラゴヴェチエンスク(Blagovetolensk)ノ附近特ニ山地ニモ多大ノ黒鉛アリテ現ニ低廉ナル價格ヲ以テ賣却セラルヘキ様子ナリ、之レニ關シテハヴァルツウイー(Varsovie)ノ商人シヤル、ド、ミハエリス(Charles de Michaelis)氏ニ照會スルヲ宜シトス。

六 亞鉛

西比利亞ノ東部ニハ亞鉛鑛多クカバロヴスク (Khararovsk) 浦鹽斯德間海岸近クニ三箇所ノ亞鉛鑛山アリ。

數年來テチユエ會社 (Compagnie de Tethé) ハテチユエ亞鉛鑛ヲ採掘ス、同鑛ハ浦鹽斯德ノ北方三百乃至四百露里ヲ隔テ、日本海岸ニ在リ、千九百十一年ノ産額ハ百四十八萬九千八百八十五布度ニシテ、鑛石亞鉛含有量ハ百分ノ三十九乃至四十九ヲ上下シ千九百十一年ニ於テ約二萬噸ヲアンヴェルス (Anvers) 港ニ輸出セリ。

カバロヴスクト浦鹽斯德間ノ海岸ヨリ一百露里ノ地點ニ於テ獨逸人ハ亞鉛及鉛ノ採鑛ニ從事セリ、其ノ他未タ採掘セサル鑛床ハブラゴヴェチエンスク (Blagovetchensk) ノ附近ニ在リ。千九百十年中浦鹽斯德ヨリ出テタル異極鑛ハ二萬四千噸ナリ。

七 錫

錫ハ昔時トランスバイカリーヨリ盛ニ採掘セラレシモ今ハ其業ヲ見サルニ至レリ、各種庖厨用具ノ製作ノ爲メ此金屬ハ曾テ多額ノ産出ヲ爲シタルモノナリ。

八 アスベスト (石棉) 及滿俺

此兩鑛物ハイルクトック縣ノ山中ニ頗ル多量アリ、アスベストハセミバラチンスク地方ニモ産出ス、曾テ佛人ハイエニセイスク縣ニ於テ「アスベスト」ノ採掘ニ從事セシカ、今ハ之レヲ放棄スルニ至リタリ。

九 其ノ他ノ鑛物

白金、方解石、水銀、曹達、硫黃ノ鑛床ハ一般ニ大量ニ非ス、又朱、蒼鉛及安質母尼ニ關シテハトランスバイカリー特ニ有名ナリ。

碧玉、水晶、ネフリット (Nephrite)、孔雀石等ノ半寶石ハ各種大理石ト共ニ西部西比利亞ニ饒多ナリ。イルクトック (Irkutsk) 縣ノ山中ニモ亦大理石、瑠璃ヲ産シ同縣ニハ新石器時代ノ「ネフリット」製造具及裝飾物ヲ發見ス。

トランスバイカリー (Transbaikalie) ノネルチンスク (Nertschinsk) 地方ニハ「ウラル」石 (de l'Oural) ト稱スル部類ノ半寶石頗ル豊富ナリ、沿海洲ノオルガ (Olga) 灣ニ臨メル地方ニハ全山大理石ヲ以テ成ルモノアリ鐵道近ク開通スヘキ世評アリ。

千九百十年ニ於ケル産額ヲ見ルニ西部西比利亞ハ千五百一萬八千七百五十四布度、東部西比利亞五十二萬二千五百九十一布度ナリ。

十 鐵—製鐵工業

西比利亞ニ於ケル鐵鑛ハノヴォ、ニコライエフ、トムスク、バルナウール及クーズネツク (Kouznetsk) 各市間ノ地帯ヲ以テ先ス其ノ白眉トセサルヲ得ス。クーズネツク地方ニハ鐵ノ外別ニ銅及石炭ヲ産ス。同シタトムスク縣セミバラチンスクノ北方ニモ産鐵地帯アリ、イルクトック縣ノ各地點特ニブーハコ

ウア(Bonhakov)河ノ附近及トウンキン(Toungking)山嶽地ニモ鐵ヲ産シ、ステツプ地方ニモ多數ノ鐵
 鑛アリ、トボルスク縣下ニ於テハチウーメン(Tioumen)ヨリクールガン(Koungan)ニ到ル鐵道線路建
 設中鐵鑛ヲ發見シタリ。蓋シ西比利亞ニ於テ鐵鑛トシテ講ラレタル地名ヲ悉ク列舉スルハ到底不可
 ナリト雖モ資本ノ缺乏ノ爲メ未タ手ヲ染メス採鑛スルニ至ラサル沿海州特ニ浦蘆斯德北方ノ鐵鑛ハ其
 ノ量ノ無限ナル之レヲ措テ語ラサルコトヲ得サルナリ。オルガ灣ノ附近ニハ地表ニ鐵鑛ノ暴露セルヲ
 見ルヘク四十乃至七十八%ノ鐵分アリ、露本國ニ於テハ二十%以上、鐵分アル場合ハ其ノ鑛石ヲ採掘
 ス、在來縣廳ハオルガ地方(沿海州)ノ鐵鑛ヲ縣自身ニ保留セント欲シテ之レカ採掘ヲ禁止セシカ、此禁
 止ハ漸ク解除セララル、ニ至リタリ。

西比利亞ニ於ケル工業用鐵ハ殆ント悉ク在ウラルノ各工場ヨリ供給セラレタルモノニシテ鐵道開通シ
 該各工場ノ製品ハ遠ク亞細亞露西亞ノ東境ニ出ツルヲ得ルニ及ヒ地方勞銀ト輸送困難トノ爲メニ行ハ
 レタル從來ノ競争ヲ一掃セリ。一例ヲ舉グレハトランスバイカリーニハ宮内省所屬ノ一工場アリシカ
 其ノ生産ヲ一年約一千噸ニ制限セルカ如キ唯又此結果ニシテ、ウラルヨリトランスバイカリーニ到ル鐵
 ノ運賃ハ一布度四十哥ニシテ鐵ハ在來現地ニ於テ製出セシモノヨリモ安價ナリ。又イルクーツクノ附
 近ナル「ニコライエヴスキー、ザヴオツド」(Nikolaïevsky Zavod)製鐵工場ハ西比利亞鐵道開通以來其
 ノ操業ヲ中止シ、宮内省ノ主要工場ハチタトヴェルクネウヂンスク(Verkhneouinsk)トノ中間ニ在

リ。

ウラルト西部西比利亞トノ千九百十年ニ於ケル産鐵額ヲ示セハ左ノ如キ比較ヲ得ヘシ。

ウ ラ ル	鑄 鐵	鐵 及 鋼
三二、二五〇、五七四 <small>布度</small>	三四、一三三、一八二 <small>布度</small>	
九三、五二二	四六、九〇九	

又千九百八年ヨリ千九百十年ニ互リ西比利亞鐵道ハ左表ノ如キ製鐵ノ數量ヲ輸送シタリ即チ

鐵	千九百八年	千九百九年	千九百十年
其ノ内軌條	一二、一七九、五九四 <small>布度</small>	一四、六三二、九四四 <small>布度</small>	二〇、六七三、六五四 <small>布度</small>
	二、九四七、九四六	三、九七〇、四八二	六九〇六、二四一

千九百十一年中浦蘆斯德港ヲ經テ輸入セラレタル各種ノ鐵、鋼鑛、機械及機械ノ部分品ハ百八十萬布
 度ニシテ千九百十二年ノ初期三箇月間ニ於テ約三十四萬布度ナリ。

十一 石炭

採炭業ハ西比利亞鐵道開通以來著シク發達セリ。由來西比利亞ニハ木材無盡藏ニシテ價格低廉ナル爲メ

石炭ヲ用ユルモノハ鐵道及工場ニ限ラレタリ。西比利亞鐵道ノ沿線及附近ニハ殆ント炭坑無キ處無ク既ニ發見セラレ今モ發見セラレツ、アリ、亞細亞露西亞ノ炭質ハ一般ニ劣等ナレトモ此無邊ノ地ニ藏匿セラル、無限ノ炭坑ハ猶ホ克ク外國資本ヲ誘導スルニ充分ナル見込アリ。

西比利亞ノ炭坑ヲ列記シ或ハ單ニ採炭中ノモノノミヲ列舉スルモ餘リニ冗長ニシテ且ツ不可能ナリ、故ニ各地方ニ於ケル之レカ概觀ヲ示スニ止メムトス。

最モ石炭ニ富ミタル地方ハノヴォ、ニコライエフ、トムスク、バルナウール及クーズネツクノ四市ヲ連結セル四邊形内ノ地域ナルモノ、如シ。各石炭坑ノ内二十箇所ハ國家ニ屬シ、其ノ採掘ハ「鑛業法」ノ列記セル條項ニ從ヒテ實施セラル、モノナリ(帝國法典錄第七卷千八百九十三年版參照)又十九箇所ハトムスク郡ニ在リ一箇所ハマリイェンスク郡ニ在リ共ニイオンダレウイッチ(Tondalovich)氏ノ所有ナリ、西比利亞鐵道ノ附近スーシヤ(Soudja)及アンゼル(Auzer)ニモ重要ナル採炭所アリスーシヤノ炭坑ハミチヘルソン(Michelson)氏ノ有ニシテ、千九百八年ニ於テ千三百萬布度ノ石炭ヲ産シ、アンゼルノ炭坑ハ二千萬布度ヲ産出セリ。

アクモリンスク(Akmolinsk)州ノ炭床ハ現存鐵道網トオレンブルグ(Orenburg)トヲ連絡スル鐵道タル南比利亞鐵道敷設ヲ見サル中ハ有效ナル採炭ヲ實施スルハ困難ナリ。

イェニセイスク縣ノ炭坑ハ國有ニシテ二十二箇所ハ個人採炭ノ任ニ當リ多クハクラスノイアルスク及

ミヌーシンスクノ南方ニ在リ。

イルクーク縣ニハ千九百十一年ニ於テ個人所有ノ炭坑五十四箇所アリ其ノ内二十四箇所ハ現ニ採炭中ニシテ、合計二千四百萬布度此價格約百七十萬留ヲ産シ、國有炭坑ハ約百五萬布度ヲ産シタリ。バラガンスキー(Balaganski)郡ノチヘレゴヴォ(Tcherepichovo)村附近ニハ主要ナル炭坑アリ。

トランスバイカリー炭脈ノ内ネルチンスクヨリ四十露里、アルバガスカ(Arbagaska)及リフ(Ifit)兩炭坑ハ最モ有名ニシテチタヨリ約四十露里ニハ褐炭坑アリ五年前ヨリ採掘ヲ見レニ至レリ。

地質學上ノ研究ニ依ルニ量ニ於テ最モ石炭ノ多キ地方ハアムール州ニシテ、到ル處石炭ヲ見サルナキ狀況ナリト雖モ、生成過度ニ近クシテ一般ニ未タ採炭ハ寡少ナリ。黑龍江ノ支流ボイア(Boia)沿岸鐵道豫定線上ニハ採炭中ノ炭坑アリ、同炭坑ハ株式會社ノ所有ニシテ炭脈ノ厚サ非常ニ大ナリ。

沿海州ニ於テハ浦鹽斯德トチユチユエトノ中間スーチャンノ炭坑ハ皇室ノ經營ニシテ年千三百萬布度ノ産炭アリ、之レヲ以テ煉炭ヲ製シ浦鹽斯德ニハ此工場アリ、スーチャン炭ノ「コークス」ハ外國産ニ比シテ生産費低廉ナリ然レトモ品質ノ關係ヨリ日本及樺太ヨリ多量ノ「コークス」ヲ輸入セリ。

樺太島ノ西岸ハ良質ノ石炭多量ニシテ六十%近キ「コークス」ヲ生スト雖モ採炭ハ漸ク一部分ノ著手ヲ見タルノミ又港頭ノ設備不充分ニシテ輸出ニ不便少カラサルナリ。

左記當局ノ統計ハ千九百九年及千九百十年ニ於ケル採炭量ヲ示セルモノナリ。

西部西比利亞	千九百九年	千九百十年
東部西比利亞	五七、八三二、四七九	六七、三〇一、七一一
	三三、九四八、一四九 <small>市度</small>	三一、五七一、四八五 <small>市度</small>

十二 鑛油

樺太島ノ石油採取ヲ目的トシ數箇ノ會社創立セラレシカ其ノ最モ有名ナルモノハ「クレー」、チャイナ、サガリン「石油會社」(Kleye China Sakhalin Oil Co)ニシテ本社ハ天津ニアリ、同島ニハ油田及「パラフィン」池アリ「パラフィン」ハ數種ノ密度ヲ有ス、油田ノ所在地ト認メラレタルカバロヴスクノ東方ニハ現ニ探油中ナリ。オブ河ノ支流ソストウオ(Dostovo)ニハ遊離セル石油アリ。揮發油モ樺太沿岸ニ多シト雖モ現況未タ採取ヲ許サ、ルモノ、如シ。

第八章 一般商工業—銀行、輸出入

西比利亞ニ於テ最モ勢力アル商社ヲ舉ケンニ「クンスト、エ、アルペール」(Kunst & Albers)商社ハ浦蘆斯德及各地主要都市ニ於テ取引ニ從事シ一般ノ企業ニ參加シ、取引額ハ一年四千萬留ヲ超過セリ。浦蘆斯德ニハ「ハリンヌ」(Telourine)商店アリ國內主要都市ニ卸賣及小賣ヲ營ミ一年三千萬留ノ取引アリ。

ヴトロフ(Voroff)商店ハ浦蘆斯德及各市ニ營業シ仕上服等ヲ販賣シ、「クレヂー」ノ方法ニ依テ三十日拂ヲ爲シツ、アリ。スキデルスキー(Skidelsky)商店モ浦蘆斯德ニ在リ木材即チ床板、嵌木細工、「セメント」ノ賣買ニ從事セリ。

其ノ他ミハイロフ、エ、マリシエフ(Michailoff & Malischeff)ハトムスク、セミパラチンスク、莫斯科等ニ營業シ裝飾品、衣服、燐寸ヲ販賣ス

フユースマン(Fuchsmann)ハトムスクニ在リ盛大ニ小麥輸出ニ從事ス。

クーチエリンモトムスクニ在リ小麥、茶、砂糖、燐寸等ノ抵當商品倉庫業ヲ營ミ。

ハルトー、エ、スタング(Hartogh & Stang)商店ハトムスクニ在リ土工、建築、井戸、鐵道工事ニ從ヒ。

マカロフ兄弟商會モトムスク、エカテリナンプル等ニ在リ衣服賣買ニ從事セリ。

ラ、バンク、デタ(La Banque d'Etat)西比利亞銀行(La Banque de Sibéri)露西亞銀行(La Banque russe)露西亞帝國銀行、西比利亞銀行、外國貿易銀行、露亞銀行等ハ西比利亞ノ各重要都會ニ支店ヲ設置セリ、其他二三樞要ノ都會モ亦獨逸銀行、^{ドイツチエー、バンク}ヴォルガ、カーマ「銀行」支店ヲ有シ、又大小幾多ノ都市ニハ各其都市銀行及相互信用ノ組織ヲ見ルヲ得タリ。

西比利亞鐵道沿線地方ニ於ケル生産製造總額ハ目下尙ホ年額八千七百萬留ヲ超過セサル如キ幼稚ノ域ニアリ。

西比利亞ノ對外貿易ハ年額七千万乃至八千万留ノ間ヲ上下セリ(此數額中ニハ支那、日本及朝鮮トノ貿易額ヲ含メリ)西比利亞ニ其ノ三箇所ノ稅關即チ海上稅關、東清稅關及西清稅關ニ依リ、千九百九年中ノ輸入貨物數量ハ二千九百六十五万二千布度^{ブイデ}ニシテ之レカ金額ハ七千六百七十五万千留ヲ算シ之レニ依ル關稅收入總額ハ千七百六十六万五千留ニ上リタリ。

外國貿易品ノ首位ヲ占ムルノ茶ハ通過貨物トシテ輸入セラル、其詳細ハ後段「茶ノ貿易」ノ章ニ就テ知ルヘシ。

千九百九年中ニ西比利亞ニ輸入サレタル農產物ノ數量ハ四、九六六、八三三^{ブイデ}布度(千ブイデハ約十六噸)ニ達シタリ。

西比利亞ニ於ケル移民ノ組織的ニシテ而モ急激ナル發展ヲ來シタルノ結果トシテ農具ノ需要ハ常ニ増進シテ已マス、而シテ之レカ供給ヲ爲シ專ラ農具市場ヲ支配スルモノハ實ニ米國人ニシテ年々同地方ニ農具ヲ輸入スル金額ハ千萬留以上ニ達セリ、此點ニ於テ第二位ヲ占ムルモノハ加奈陀及瑞典ノ兩國ニシテ露、獨、英、ノ三國ハ第三位ヲ占ムルモノ而モ其販賣額ニ於テハ前者ヲ距ルコト甚タ遠シ、目下露國ニ於テ最重要ノ地位ヲ占ムルモノハ米國ノ「インターナショナル、ハーヴェスター會社」(米國七工場^ニ連合會社)ニ

聯合會社

シテ、此程ニ至リ五百萬留ノ資本ヲ以テ一大工場ヲ莫斯科附近ニ建設シタリ、又風評ニ依レハ近時同シク同市附近ニ刈秣機製造ノ米國工場ノ建設ヲ見ルニ至ルヘシト云フ、然ルニ又一方ニ於テハ米露間ノ通商條約ノ廢棄ハ今日ヨリ米國輸入品ニ多額ノ減少ヲ惹起スルニ至ルヘシトハ吾人ノ之レヲ説明セント欲スルトコロナリ、試ニ米國ヨリ輸入シ居ル農具ノ價格ヲ見ルニ刈秣機^{モウソウシキ}一臺ノ價格ハ百六十五留ヲ算シ刈秣機^{フョウニシズ}ハ百五留乃至百十五留ノ間ニアリ、而シテ米國ヨリ輸入スル犁^{ウラ}ノ年額モ亦頗ル多數ニ上レリ、米人ハ此ノ如ク多額ノ農具ヲ輸入スルニ當リ百方露人ノ便宜ヲ圖リ、露語ヲ以テ農具一切ノ「カタロ」^{カタル}ヲ作リテ之ヲ配布シ而シテ其代價ハ年賦仕拂ノ方法ヲ以テセリ、獨逸モ亦米國ニ亞テ多額ノ犁ヲ輸入シ、露國自身モ亦西比利亞領ニ供給スルノ目的ヲ以テ打禾機ト多量ノ犁トヲ製造スレトモ、刈秣機^{モウソウシキ}及刈秣機トハ尙ホ未タ自ラ之レヲ製造セスシテ專ラ他國ノ輸入ヲ仰キ居レリ、要スルニ目下露國ニ在ル多クノ工場ハ外國人ニ依テ建設サレ且ツ其支配ヲ受ケツ、アリ、オムスク及ノヴォオ、ニコライエツフノ兩市ハ目下西比利亞地方ニ於ケル農具ノ集散ヲ司ルニ大重要地ナリトス。

獨逸ハ西比利亞地方ニ多量ノ鐵製品ヲ供給セリ。

英國ノ輸入貿易額ハ比較的僅少ノ地位ニアリ。

白耳義ノ同地方ニ於ケル貿易ニ關シテハ、我製品カ今日尙ホ未タ同地方ノ重ナル都市ニ殆ント認知セラ

ル、ニ至ラサル如キ甚タ遺憾ナリトス。

我同胞カ露人ト直接ニ取引ヲ爲スコトハ極メテ稀レナリ、蓋シ我鐵製品及硝子細工ハ從來東部西比利亞沿岸ノ諸港ニ無稅輸入ノ特典ヲ享有シ居リテ大ニ利益スルトコロ有リシカ、三年前此特權ノ廢止以來、此等ノ製品ハ概シテ英獨商人ノ手ヲ經テ輸入セラル、事ト爲リタリ。

是レニ反シ白耳義製ノ獵銃ハ幸ニシテ西比利亞地方ニ歡迎セラレ第一位ヲ占メ居レリ、就中クラスノイアルスク及ノヴォ、ニコライエツフ地方ニ於ケル獵銃ノ輸入ハ白耳義製品其最大部分ヲ占メ居ルニ徴シテ明ナリ、現ニ右ノヴォ、ニコライエツフノ一商人ハ予ニ曰ク、彼ハ一年間ニ白國ヨリ廉價ニテ「ブラウニング」銃及其他ノ小銃七千萬留ヲ購入セリト、此數字ハ未タ以テ多額ナリト云フヲ得サレトモ、此種武器ノ貿易ニハ常ニ無數ノ困難ヲ伴フモノナルコトヲ知ラサル可ラス即チ何人ト雖モ豫メ地方官憲ノ許可ヲ以テスルニアラスンハ武器ノ販賣店ヲ設クルヲ得ス、又武器毎ニ特別ノ許可ヲ得タル場合ニアラサルヨリハ武器及軍需品ノ輸入ヲ爲スヲ得サルナリ、要スルニ此種ノ輸入稅カ如何ニ重キカハ武器及軍需品カ一布度毎ニ四十三留二十哥ナルニ顧ミテ其一斑ヲ察スルニ足ラン、而シテ白國製造家ハ六ヶ月間ノ信用取引ヲ以テ以上ノ困難ヲ緩和センコトニ努メ居レリ、但シトムスク縣内ノ住民ハ主トシテ莫斯科附近ノトウーマニ於テ製造セラレタル粗質ノ小銃ヲ使用セリ。
板硝子ハ概シテ露本國ヨリノ輸入ニ係レルモノ多シト雖モ、一般ニ「シネツス、シコツプ」第四號ノ各稱ノ下ニ知ラレタル普通ノ硝子ハ白國ヨリ輸入セラル、モノナリ。

歐露エカテリノスラウ近傍ニハ板硝子及塋製造ノ白國工場ノ建設アリ。

牛酪工業ニ於テモ亦最近ニ至リ白國輸入ノ「セバラトウトル」ト稱スル製造器具ヲ使用スルモノアリ、西比利亞内ニ起スヘキ土木事業ニ關スル材料ハ主トシテ之レヲ地方工業ノ供給ニ仰クト雖モ外國製品ヲ絶對ニ排斥スト云フニアラス、例ヘハ軌條ノ如キハ、必要ノ場合ニハ之レヲ歐洲ニ求ムルコト必無ト云フニアラス、現ニ露國內ニ建設サレタル外國工場又ハ其支局カ西比利亞領内ニ建設サレタル工場ノ局支ト同一視サル場合ナキニアラス。

獨逸製品ハ各國市場ニ於ケルカ如ク西比利亞ニ於テモ亦日々ニ輸入ヲ増進セリ、我東鄰國ノ輸出貿易カ斯ク成功ヲ來セル所以ハ畢竟人ヲ輸出先キニ出張セシメテ實地ノ嗜好ヲ研究シ且ツ之レカ取引上長期信用貸ヲ許容セルニ由ル然ルニ我同胞ハ賞賛スヘキ製造家ナレトモ良貿易家タル能ハス獨人ノ必要トスル貿易發展策ハ我同胞ノ理解セサルトコロナリ、目下西比利亞地方及支那國內ニ於テ長期信用ノ取引ヲ許シテ活潑ナル貿易ニ從事シ居ル白國商店トシテハ、吾人ハ唯僅カニ一大商店アルヲ知ルノミ、此商店ハ東部地方ニ於テ鐵及各種雜貨ノ販賣ニ從事セリ。

西比利亞ハ元來資本ニ缺乏シ居ルカ故ニ信用貸借ハ貿易ノ成功上缺ク可ラサル一要素ナリト云ハサル可カラス、而シテ諸機械、鑄鐵及鋼鐵等ニ關シテハ一割乃至一割二分ノ利廻リヲ以テ取引セラル、ヲ常トス、逸獨カ千九百十二年ニ九分ノ利益ヲ以テ右鐵類ノ製品ヲ亞歐地方ニ輸出スルコト實ニ百八十

萬布度ヲ算シタリ、然ルニ代價ノ仕拂ハ一ニ不均等ナル收穫物ノ良否如何ニ依テ定ムルモノトス、最近三箇年間ハ西比利亞ノ一部地方ニ於テハ凶作ナリシカ、本年ハ概シテ一般ニ豐作ナル等如何ニ代價仕拂ノ要素カ不確實ナルカヲ知ルニ足レリ、氣候モ亦變化極リ無ク、時ニ害蟲ノ被害ヲ受クルコト少カラサルカ故ニ西比利亞ノ耕作ヲ談スルニ當リ宜シク常ニ之レヲ念トセサル可ラス、政府ハ最近ノ饑饉ニ際シテ農民ニ種子ヲ貸與シテ其窮境ヲ救助シタルコト有リ、而シテ農民ハ將來其代價ヲ上納セサル可ラサルノ義務ヲ負擔セリ。

以下輸出貿易ニ就テ之レヲ説明セントス、露本國及諸外國ニ輸出スルトコロノ重ナル西比利亞生産品ハ毛皮、皮革、家畜、牛酪、穀物、獵ノ獲物、尾毛、豚毛、牛蠟等是レナリ、又漁撈及森林生産品モ亦同地方ノ一大輸出貿易ヲ爲シ専ラ海上輸送ニ依テ行ハル。

西部西比利亞地方ニ於テ製造セラレタル牛酪ノ歐羅巴諸國トノ貿易額及輸出額ハ近時驚クヘキ發達ヲ來セリ、其詳細ハ後段「牛酪工業」ノ部ニ説明スヘシ。

西比利亞産出ノ千九百九年中ニ於ケル牛ノ輸出額ハ約二十五萬六千布度ニ達シ、千九百三年ノ輸出高ニ比シテ「パーセント」二分ノ一ノ増加ヲ示シタリ。

日露戰爭以後千九百九年ノ春期迄ノ間、太平洋ノ沿岸諸港ヨリ輸入サレタル一切ノ貨物ハバイカル湖迄ノ地域ヲ限リ總テ輸入税ヲ免除セラレタリ、然ラハ西方ヨリノ輸入貨物ハ殆ント皆イルクーツクヲ

以テ限レルモノト看做スヲ得ヘシ、要スルニ日、米、獨ノ三國ハ沿黑龍地方ニ於ケル市場ノ支配權ヲ有セリ。

カムツアツカ地方ハ今日ニ至テモ尙ホ關稅ニ就テハ自由ナリ、而シテ浦鹽斯德トハバロヴスコトノ間ニ包含セラレ鐵道ノ西部ニ位置セル一帯ノ地方モ亦然リ。

ザイサン、浦鹽斯德間ニ於ケル支那國境ニ接シタル地方ニ在リテハ「二百、ヴェルスト」ノ廣袤ヲ有スル地帯ニ限リ露支兩國生産品ノ輸出入ニ對シ關稅ヲ課サルモノトス。

吾人ハ嚮キニ浦鹽斯德港ニ關スル記事ヲ説明シタルトキ、海上輸送及「ウスーリ」鐵道ニ依レル同港ノ輸出入貿易額ノ概數ヲ示シタリシカ、左ニ又海上貿易ニ依レル輸出入ノ詳細ヲ示ス可シ。

- 一 千九百十一年中ニ歐露ヨリ浦港ニ向海上輸入貿易
- 一 セメント 一、二二四、八〇九市度
- 一 鐵道材料 一、〇〇六、七八二
- 一 砂糖 八八九、七二四
- 一 石油 四八六、二二三
- 一 鐵、銅、鐵及鑄鐵 四一八、八七四
- 一 書簡紙其他 一四二、一三二

- 一 鑛油 一三四、五〇四
- 一 地氈青及瀝青 アスファルト 一〇〇、六三五
- 一 「アルコール」及燒酎 八八、四五七
- 一 蠟引布、毛氈用密布、蓋紙等 リネン 六三、四〇四
- 一 食鹽 四七、三〇三
- 一 烟草、紙卷烟草、烟草卷用ノ紙 四四、九〇二
- 一 珍奇物及羅紗 ファンタジー 四一、三五六
- 一 肉類及牛蠟(生及凍リタル) 四〇、八七五
- 一 麥粉「マルト」、精製麥粉 四〇、四四六
- 一 葡萄酒 三九、六九八
- 一 煉瓦、陶器、石、粘土 三九、〇七〇
- 一 植物性ノ油 三二、四四六
- 一 罐詰 二八、七七九
- 一 香料品及藥品 二六、九七一
- 一 農具 二六、六四一

- 一 果物及野菜 一三三、一八六
- 一 大網具、網、漁撈網 一二二、四七九
- 一 石鹼 一九、四八九
- 一 蠟燭 一六、七八七
- 一 銅、亞鉛、錫、銀、青銅 一六、一一四
- 一 鑲水 一五、六八八
- 一 馬車、車輪、鐵道客車貨車ノ材料 一八、二七四八
- 一 化學工業製品及藥劑品 一一、二六六九
- 一 染料及漆 二六、一一、八三三
- 一 皮細工、履物類 一一、三四九
- 一 糖菓類 一一、二九六
- 一 綿布細工 一八、九一四八
- 一 燐寸 一八、四六五
- 一 家具類、洋燈等 八、三二三
- 一 硝子 八、〇九〇

一 骸炭	六、七二四
一 瀝青、木精	六、六八七
一 其他	一四、三三六
合計	五、一八九、四三二
二 千九百十一年中、諸外國ヨリ浦鹽斯德向海上輸入貿易	
一 食鹽	四、四一四、八四四
一 石炭及骸炭	三、六九〇、六五三
一 茶	二、〇四九、六六四
一 鐵、鋼鐵、鑄鐵、機械類	一、八一七、七四二
一 果物及野菜	一、〇五二、一〇三
一 米、(白米及玄米)	一、〇一六、五八九
一 家畜、牛、蠟、生肉及鹽肉	三五二、五二一
一 化學工業品、藥品	二二二、四三七
一 煉瓦	一六六、六八六
一 鶏卵(生及貯藏)	一二七、八九五

一 硝子類一切	九〇、〇五三
一 石油	八一、二五〇
一 罐詰	八〇、六九五
一 瀝青及「アスハルト」	七七、九六五
一 羅紗、綿布、珍奇物	七六、二七四
一 膏粉及石灰	七〇、一八五
一 石、粘土、陶器	六八、七二三
一 苧麻製ノ袋、網	四四、六〇〇
一 植物性ノ油	四〇、六四七
一 紙、書簡紙	三五、七五三
一 麥粉「マルト」、精製麥粉	三四、九七九
一 大網具、網、漁撈網	三三、八七三
一 砂糖及甘蔗	二七、五七四
一 樹皮編及麥藁編	二五、一九七
一 家具類一切	二二、二五九

一「アルコール」性飲料水	一一〇、三九一
一銅、亞鉛、鉛	一九、九七一
一「グロイドロン」 ^レ 、テレビン油 ^レ 、「パワー」	一九、三九四
一電氣用器具	一八、四九五
一製材	一六、九六二
一軍車、車輛、客車、貨車（鐵道用）	一四、五〇七
一木栓	一〇、七〇五
一革皮、尾毛、豚毛	九、三四三
一鑛油	四、〇二九
一其他ノ貨物	二六四、五五九
合計	一六、一三四、四一七
三 千九百十一年中汽船ニ依レル輸出貿易	二九、二三〇、四一四 ^{市度}
一蠶豆	一六、一九三、六四
一建築用材	一、一一六、六〇一
一糖	

一白楊樹	八五二、六一七
一麻ノ種子	七四九、二五〇
一滿洲產豆糟	五〇二、三七三
一魚類	一一九、七〇二
一細工用材	一六五、二四二
一古鐵	五七、四二九
一馬鈴薯	五三、七六三
一小麥粉	五一、五九二
一肥料	四三、一九九
一牛皮其他ノ獸皮	二八、二四六
一粟	二七、二九五
一燕麥	二五、八二三
一野菜	二二、八二三
一玉菜	一八、八四五
一大麥	一八、〇六四

一金屑	九、五〇〇
一古銅	九、四一九
一豌豆	五、〇三九
一牛酪	三、一七四
一香料	三、一六一
一蠟	一、三三三
一羅紗細工	一、六五四
一其他	一、四四、九〇六
合計	三四、七九一、七二八

右輸出貨物ノ總計中左ノ數量ハ滿洲ヨリ無稅通過トシテ來浦シタルモノニ屬セリ

一蠶豆	二九、二三〇、四一四
一糖	七七一、六一七
一麻ノ種子	七〇九、七八四
一建築用材	四〇〇、四七一
一滿洲產豆糟	三五四、二六〇

一小麥粉	五一、五九二
一其他	一一五、五五〇
合計	三一、六三八、六八八

之レヲ以テ千九百十年ノ輸出入額ト比較スルトキハ左ノ如シ(單位布度)

四 輸入貿易(概數)	一九一〇年	一九一一年	一九一一年ノ増減
歐露ヨリノ海上輸入	五五五八、〇〇〇	五、一八九、〇〇〇	減 三六九、〇〇〇
諸外國ヨリノ海上輸入	一四、四九七、〇〇〇	一六、一三四、〇〇〇	増 一、六三七、〇〇〇
沿岸航海船及帆船ニ依ル輸入	八、一一六、〇〇〇	一〇、六五二、〇〇〇	増 二、五三六、〇〇〇
ウイーストリー鐵道ニ依ル輸入	三一、七二七、〇〇〇	三九、八三六、〇〇〇	増 八、一〇九、〇〇〇
合計	五九、八九八、〇〇〇	七一、八一一、〇〇〇	
五 輸出貿易			
外國諸港ニ向テ海上ニ依ル輸出	一九、二一三、〇〇〇	三四、七九一、〇〇〇	増 一五、五七八、〇〇〇
沿岸航海船ニ依ル輸出	三、七八〇、〇〇〇	三、五五四、〇〇〇	減 二二六、〇〇〇
ウイーストリー鐵道ニ依ル輸出	一二、五一六、〇〇〇	八、一九七、〇〇〇	減 四、三一九、〇〇〇

合計

三五、五〇九、〇〇〇

四六、五四二、〇〇〇

海上ニ依テ露本國ヨリ輸送シ來リタル千九百十一年中ノ輸入額ハ其合計ニ於テ前年ニ比シ減少シタルノ觀ヲ呈スレトモ、而モ地方消費用ノ輸入額ハ前年トノ比較ニ於テ却テ増加ヲ來シタリ

是レ畢竟千九百十年中ニハ政府經營ノ工費用トシテ多量ノ材料ヲ輸入シタルタメナリ是レニ反シ地方住民ノ消費高ヨリ之レヲ比較センカ、千九百十年ノ輸入額ハ二百七十八萬六千布度ヲ出テサリシニ、其翌年ニ至テハ二百九十六萬九千布土ニ増加シタリ。

若シ夫レ滿洲地方ヨリ通過貨物トシテ輸入セル支那食鹽二、三二七、〇〇〇布度及茶ノ二、〇四八、〇〇〇布度之レカ合計四、三六五、〇〇〇布度ヲ、外國諸港ヨリノ輸入合計額タル一六、三〇四、〇〇〇布度ヨリ控除セハ、結局地方住民ノ消費シタル數量ハ一一、七六九、〇〇〇布度タルコトヲ證明シ得ヘシ

又諸外國ヨリ海上貿易ニ依テ輸入セル重要貨物ニ就テ之レヲ千九百十年及千九百十一年ノ兩年比較ヲ爲ストキハ左ノ如シ

茶	一九一〇年	一九一一年
食鹽	三、九〇四、〇〇〇 _{布度}	二、〇四九、〇〇〇 _{布度}
果物及野菜	二、六一二、〇〇〇	四、四一四、〇〇〇
	一、一三二、〇〇〇	一、〇五二、〇〇〇

鐵及加工鋼鐵	一、五七五、〇〇〇	一、八一一、〇〇〇
石炭	二、〇二六、〇〇〇	三、六九〇、〇〇〇
米(白米、玄米)	一、一七一、〇〇〇	一、〇一六、〇〇〇
煉瓦	九三二、〇〇〇	一六六、〇〇〇
家畜、肉類及牛蠟	八二五、〇〇〇	三五二、〇〇〇
石膏	一一八、〇〇〇	三三二、〇〇〇
セメント	三九、〇〇〇	一、〇〇〇
其他	六一三、〇〇〇	一、五五二、〇〇〇
合計	一四、九四七、〇〇〇	一六、一三五、〇〇〇

六 茶貿易

茶ノ貿易商隊ハ從前嘗テ烏得——恰克圖——イルクーツクノ順路ヲ取りタリシカ、漢江地方ノ產出茶ノ一部ハ今日尙ホ此順路ニ依ルヲ常トシ、而シテ他ハ海上輸送ニ依テ波羅的海ヨリ露國ニ輸入セラレツ、有リ、然レトモ支那製茶ノ大部分ハ太平洋沿岸、就中浦鹽斯德港ニ入り、同港ヨリ更ニ直接ニ之レヲ莫斯科ニ移送シ居レリ、是レ蓋シ海上輸送賃ハ陸上輸送ニ比シテ素ヨリ低廉ナルニ相違ナシト雖トモ、然レトモ波羅的海ヨリノ輸入茶ニ對スル露國ノ關稅ハ頗ル重稅タレハナリ(一布度ノ輸入稅ハ三十一留五

十哥、但シ磚茶ハ十一留二十五哥)要スルニ其茶ハ、西比利亞鐵道ニ依リ、粗製茶ハ海上ニ依ツテ歐洲ニ輸送セラレ、モノトス。

輸送茶ノ送先及商人ノ便宜如何ニ依テハ右無稅通過茶ハイルクーツク及チタノ稅關ニ於テ輸入稅ヲ支拂ヒ、或ハチエリアピンスクニ於ケル露本國ノ稅關ニ支拂フモノナリ。

原野地方、イルクーツク及黑龍總督ノ管轄國境ヨリ輸入セル「ボヘア」茶(花茶、綠茶及黃茶)ニ對スル輸入稅ハ一布度ニツキ二十五留五十哥ナリ。

各國境稅關ニ依リ及各品質ニ依テ分類シタル輸入茶ニ關スル最近ノ統計ハ千九百九年ノ數字ナリ即チ左ノ如シ

中央亞細亞國境ヨリノ輸入茶

紅茶.....四九、二九六布度

綠茶.....四一三、九二五

磚茶.....三三五

西部露支國境ヨリノ輸入茶

「ボヘア」紅茶.....二、四一七布度

壓榨茶.....一、一〇一

西比利亞稅關及沿黑龍地方稅關通過ノ茶

「ボヘア」紅茶.....四九五、一九九布度

壓榨茶.....一、二六五、八二六

磚茶.....二〇、六四二

又沿黑龍地方ニヨリ千九百十年及千九百十一年ノ兩年ニ輸入シタル製茶ノ數量ヲ舉ケレハ左ノ如シ

一九一〇年 葉茶 三〇七、五五〇箱

一九一一年 同上 一九四、二七二箱

兩年間ニ此ノ如キ減少ヲ來シタルハ最近支那ニ起リタル動亂ノ結果ニ外ナラス、又一箱ニハ七十二乃至百三十「リーヴル」ノ葉茶ヲ包含スルモノトス。

右數字中ニハ磚茶ヲ包含セス、磚茶ハ品質劣等ナリ、而シテ一箱ニ百六十「リーヴル」ヲ包含セリ、又磚綠茶ハ露本國ニノミ輸出セラレ、モノトス。

浦鹽斯德港ヨリ千九百十一年中ニ輸入シタル茶ノ數量ハ千九百十年ノ輸入ニ比シテ百八十五万五千布度ヲ減少シタリ、是レ茶貿易ノ中心タル漢江カ支那革命戰ニ對シ其最モ活躍シタルノ結果ナリ、然レトモ之レカ爲メニ賣買價格ニハ敢テ著シキ影響ヲ及ホサ、リシ所以ハ巨商カ豫メ其倉庫ニ多量ノ準備ヲ

有シ居タルカ爲メナリ。

莫斯科及倫敦ハ歐洲ニ於ケル茶ノ一大集散地ナリ。

又西伯利ニ於ケル茶商館ノ重ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

一 千スチャコフ(滿洲里、哈爾濱、莫斯科、浦鹽斯德等ニ商館ヲ設ケアリ)

一 シエベトツフ(恰克圖及莫斯科ニ支店ノ設ケアリ)

一 ツデニコツフ、マチャノツフ兄弟商會(恰克圖)

一 リニコツフ(恰克圖)

一 ウイツトスキー商會(莫斯科)

一 グープキーヌ(莫斯科)

一 ヴォゴー商會(莫斯科)

又漢江ニ設立サレタル露ノ茶商ヲ舉クレハ左ノ如シ

一 マチャノツフ、ペチャノツフ商會

一 リトヴィノツフ商會

一 ナクヴァレーヌ商會

一 シー、ロ、パノツフ商會

西比利亞鐵道ノ開通前ニ在テハ、各重要都會就中イルクーツクノ茶巨商カ當時茶ノ唯一ノ輸送方法タル商隊ヲ組織シテ殆ント茶貿易ノ獨占權ヲ有シ得タルノ觀アリシカ、鐵道ノ開通ハ此ヲ奪フコト、ナリタリ。

第九章 鐵道及航海

西比利亞鐵道、西比利亞地方ノ經濟上ノ發展ニ及ホシタル此大幹線ノ勢力ノ如何ニ大ナルモノアリシカラ證明スルハ頗ル興味アル問題ナリ。

此大事業ヲ提案シ、反對說ヲ排斥シテ之ヲ斷行シタルノ名譽ハ之レヲ歷山三世ニ歸セサル可ラス、宜ナル哉イルクーツク市ハ「西比利亞ハ歷山三世ニ感謝ス」ト銘記シタル彫像ヲ建設シテ長ヘニ同帝ノ西比利亞開發ニ對スル謝恩ノ意ヲ表シタリ。

世ニ亞露ヲ紹介シ、地方生産物ノ急速ナル發展及之レカ貿易ノ確實ヲ開始シ、生活費ヲ低減シ、建設ニ數世紀間ヲ要シタル都會ト競争シ得ヘキ程ノ幾多重要ナル都市ヲ僅カニ十年間ニ創設シ、今日迄世ニ知ラレサリシ無限ノ富ヲ地下ヨリ掘出サシメ以テ露國ノ富ヲ増大ナラシメタルモノハ實ニ此西比利亞大鐵道ナリ。

オムスク及イルクーツク兩市ノ如キハ從來餘リ發展ヲ見サリシカ、一ト度鐵道ノ開通アリタル以來、人

口忽チニシテ増加シ、其貿易ハ商隊ヲ組織シタル若干巨商ノ手裡ニ集中セラレ居リシモ、是又今日ニ至テハ鐵道敷設ノ爲メ公正ニ普ク配置セラル、コト、爲リタリ、要スルニ幹線鐵道ニ沿フタル新都會カ急速ナル發展ヲ來セルノ狀ハ宛然北米合衆國ニ於ケル新都會發達ノ狀況ニ等シ、是ニ反シ多少ナリトモ幹線ニ遠カリタル都市ハ漸次其勢力失墜セリ例ヘハトボルスグ、トムスク(舊首府タル)ノ如キハ早晩其地位ヲノヴォ、ニコライエツフニ奪ハルヘク、エニツセイスクハ最近發達シタルクラスノイアルスグニ侵害セラルヘク、又是等ニ比シテ重要ノ度コソ聊カ低キコリヴァン(ノヴォ、ニコライエツフ去ルコト三十「ヴェルスト」ノ地ニアル)市ノ如キハ從前ハ各巨商カ商品倉庫ヲ有シテ莫斯科ノ商隊カ足ヲ駐メタル西比利亞貿易ノ一大驛タリシモ、是レ亦漸次衰微スルノ徵候ヲ示スニ至レリ

各地方ニ定期的ニ開設セラルヘキ市場ノ習慣ハ今日尙ホ存續スルモ是レ亦鐵道開通ノ爲メ漸次昔日ノ勢力ヲ失墜スルニ至レリ。

本西比利亞鐵道カ其ノ發展ニ貢獻セル營業ニ比例シテ、此地方ノ經濟的進歩ハ之レカ當然ノ結果トシテ鐵道ノ收入額ニ影響ヲ及ホスモノナレトモ、元來此西比利亞鐵道ハ自己固有ノ財政的利益ヨリ云ハハ有利ナル事業ト看做シ得ヘキモノニアラス、現ニ此幹線鐵道及新黑龍鐵道(此分ニ對スル敷設費ハ二億五千留)ノ建設費ニ十億六千四百三十一萬千留ノ巨額ヲ要シ、且ツ千九百八年迄ノ鐵道經營費ニ關シテ年々多額ノ缺陷ヲ生シ、千九百八年ハ一箇年ノ不足額八百四十三萬留ニ達シタリ、又鐵道沿線ノ監守

費トシテ出費セル金額ノミヲ以テスルモ一箇年千二百萬留ヲ要セシ等西比利亞橫斷鐵道ノ敷設及維持ニハ巨額ノ出費ヲ要スルカ故ニ、單ニ營利ノミヲ目的トシテハ決シテ有利ノ業ニアラサルナリ、實ニ該鐵道カ七百萬留以上ノ純益ヲ得テ其經營費ヲ殆ント償フコトヲ得ルニ至リタルハ漸ク千九百八年以來ノ事ニ屬セリ、然レトモ過去及將來ノ敷設費ヲ償還シ并ニ年五千萬留ヲ要スル經營費ヲ償ハシニハ尙後尙ホ多年ノ間巨額ノ犧牲ヲ負擔セサルヲ得サルヘシ。

西比利亞ニハ森林伐採業ヲ首トシ其他幾多有利ノ事業アリト雖モ、暫ラク之レヲ計算外ニ置キ單ニ鑛山工業ノミヲ以テスルモ、優ニ西比利亞鐵道ノ有利ナル將來ヲ保證シ得ヘキナリ。

西比利亞鐵道ノ複線ニ關シテハ其後多大ノ努力ヲ以テ進行セラレツ、アルカ如シ早晚全線ヲ通シテ結了セラル、ニ至ルヘシ、目下ノ軌條ハ餘リニ輕ク從テ多量ノ積載ヲ許サ、ルカ故ニ、漸次重軌ニ取換ヘラル、コト、爲リ、他日落成ノ上ハ速度ノ増進ヲ見ルニ至ルヘシ、目下ノ輕軌ヲ以テシテハ一時間ノ平均速度ハ三十五乃至四十「キロメートル」ヲ出テサルナリ、此橫斷鐵道ニ要シタル材料ニ就テハ政府直轄ノ諸工事ノ場合ニ於ケルカ如ク、總テ露國產ノ材料ノミヲ使用シタリ即チ鐵橋ノ材料ハウラル及莫斯科附近ノコロシムネスキノ鐵工場ニテ製造シタル分ヲ使用シ、隧道工事ニ關シテハ伊國技師ヲシテ遂行セシメタリ。

鐵道開通ノ當初ニ在テハ燃料材料トシテ專ラ薪ヲ使用シタリシカ、其後沿線到ル所ニ多少ナリト石炭

脈ヲ發見シタルヲ以テ、今日ニ至テハ一般ニ石炭ヲ使用スルコト、爲リ、尙ホ若干ノ機關車ハ燃料トシテ石油ヲ使用スルモノアリ。

露帝國鐵道廳カ發表シタル千九百十年ノ統計ハ西比利亞鐵道ノ同年一箇年ニ對スル收入概算ヲ三千五百五十五萬八千四百四十四留ナル旨ヲ示シタリ。

右收入額ヲ各種輸送ニ依テ區分スルトキハ以下示ス如キ割合ヲ以テシタリ、即チ旅客(各等ヲ通シタル)ノ輸送賃トシテノ收入額ハ七百二十六萬五千五百六十五留、貨物ノ輸送ニ依レル收入額ハ之レヲ細別シテ急行輸送賃トシテ百十四萬千六百九十六留、通常輸送賃トシテ二千五百九十九萬二千八百留、又補足稅其他ノ手數料トシテ二百十五萬二千九百五十三留ノ收入ヲ算セリ、而シテ之レカ内譯割合ヲ示サハ旅客ノ輸送賃ハ二〇・四二「パーセント」貨物ノ急行輸送賃ハ二二・二「パーセント」、通常輸送賃ハ七〇・三二、其他ノ諸稅トシテハ六・〇六「パーセント」ノ割合タルナリ(以下賃銀表ヲ略ス)。

明年ニ至ラハ極東方面行旅客ハ「長春、釜山間」列車ノ創設ニ依テ又恐ラクハ「長春北京間」列車ノ創設ニ依テ便宜ヲ得ルニ至ルヘシ、其他ワルソー、浦蘆斯德間ニ直通列車ヲ設テ東京トノ連絡ヲ設クルニ至ルヘシト目下世人ノ專ラ風評スルトコロナリ。

蒙古ヲ經過シテ北京ト西比利亞鐵道トノ接續ヲ目的シタル鐵道ノ敷設ハ今日已ニカルガン驛迄竣成レ其間ノ距離ハ百三十五哩ナリ、本鐵道ハ恰克圖驛ヲ經テ貝加留湖ノ南瀕ニ達スルノ計畫ナルカ(ミツ

ツヴァヤ附近)、他日竣成シタル曉ニハ從來十四日間ヲ要シタル巴里北京間ヲ僅カニ九日間ニテ旅行スルヲ得ヘキナリ。

黑龍江鐵道ハストレテンスク、ハパロウスク間ノ連絡ヲ目的トシタルモノニシテ、戰略上ノ理由ニ基キ黑龍江ヲ距ルコト五十乃至百「ヴェルスト」ノ内地ニ敷設セラレ而シテヴラゴウエシチエンスクヨリハパロウスクニ至ル間ノ鐵道ハ殆ント直線タレトモ、江邊ヲ距ルコト更ニ一層深キ内地ニ建設セラレタリ、本鐵道ニ要セシ工夫ノ數ハ各地方ノ現場ニテ募集シタルモノヲ計算外ニ置キ、各區間ニ三萬人ノ割合ニテ總數十萬人ヲ他方面ヨリ輸送シ來リテ同時ニ著手シタリト云フ、露人ノ工夫一日ノ賃銀ハ壹留五十哥ナルニ、支那工夫ニハ一日五十哥ノ賃銀ヲ仕拂フノミ、而モ其後ニ至リ支那工夫ノ使役ヲ中止スルニ至リタリ、又鐵道技師ハ主トシテ露人ナレトモ、外國技師ヲ雇聘シ得サルニアラス、而シテ本鐵道ハ今年ヨリ四年間ニ竣成セラレヘキ豫定ナリト云フ、又此幹線ニハ多クノ軍用支線ヲ敷設スヘク、殊ニブラゴウエシチエンスクニハ必スヤ敷設セラレ管ナリ、是等ノ支線ハ戰略上ノ理由ニ基キタル設計ナレトモ、此ノ他ニ尙ホ該地方ニ豐富ナル鑛脈ヲ開發スルノ目的ヲ以テ新タニ支線ヲ敷設スルニ至ルヘシ、又貝加留湖一周鐵道ハ目下問題ト爲レリ。

露帝國政府ハ「南部西比利亞國有鐵道」ナルモノヲ約一億五千五百萬留ノ豫算ヲ以テ建設セントスルノ意向ヲ有セリ、本鐵道ハウラウスクヲ起點トシオレンブルグ、及アクモリンスク等ヲ經テセミパラチンスク

ニ至ル地域ナリトス、政府ハ又「アルタイ鐵道」ヲ建設シテ「ヴォニコライエツフ、ビイスク、バルナウー
ル、セミバラチンスク」等ヲ連結スルノ目的ヲ有セリ、此他ニ尙ホ新計畫案ノ重ナルモノヲ舉クレハ「エカ
テリナンブルグ」ヲ起點トシテ「イルビツシユ」及「サンドカ」ニ至ル線路（或ハ「トボルスク迄」）、オムスクヨ
リ「チウメン」ニ至ル線路、オムスク、セミバラチンスク間鐵道、ヴェルクネウデインスク、トロイコサヴスク
間鐵道ノ如キ是レナリ、又「イルクーツク」總督ハ「レナ」地方ノ鑛山採掘ヲ目的トシテ「イルクーツク」ヲ起點
トシテ「ボダイボ」ニ達スル千八百「ウエルスト」間ノ電氣鐵道ノ敷設ニ多大ノ興味ヲ有シ、白耳義國ノ資金
ヲ以テ此計畫ヲ遂行センコトヲ希望セリ。

極北地帯ニ於テ「モアルハンゲルスク」及「ベレツフ」間ヲ接續シ、又「オプトルスク」ヲ北氷海ニ連接スヘキ鐵道
ノ敷設ヲ考案スルモノ無キニアラサレトモ、之レカ實現ハ蓋シ遠キ將來ニ屬スルコトナラン、而シテ敷
設ノ目的ハ「トボルスク」縣内ノ生産物ヲ海陸兩交通機關ニ依テ「アルハンゲルスク」方面ニ搬出セントスル
ニ在リ、唯實行上ノ困難ハ該地方ノ地質カ所謂「ツンドラ」ナルカ否ラサレハ地下一歩ノ深サカ總テ永久
的凍地ナルニ在ルノミ。
水運會社ハ又「オビ」、「イルチツシユ」、「イエニツセイ」、「レナ」、「黒龍江」等ノ如ク大小ノ河川及支流ニ於ケル交
通ニ從事セリ、但シ是等ノ水上運輸機關ハ結氷期間ニ於テハ總テ運輸ヲ中止セラル、コト言フ俟タサ
ルナリ、倫敦ノ「西比利亞商業運船會社」ハ今年試験トシテ初メテ一運船ヲ「イエニツセイ」河口ニ送り、其

處ニテ貨物ヲ河航運船ニ積換ヘ以テ西比利亞内地ノ貿易ヲ試ントセリ。

然ルニ「イエニツセイ」河ニハ「ミノウシンスク」ヲ南ニ去ルコト二百六十「ヴェルスト」ノ地點ニ急流ノ場所
アルカ故ニ水開其他ノ作業ヲ施スノ必要アリ、若シ此事業ニシテ成功センカ、北ハ「イエニツセイ」河口ヨ
リ南ハ蒙古ニ至ル四千「キロメートル」間ニ驚ク可キ水運ヲ創設シテ其間ニ物資ノ直接運輸ヲ爲シ得ル
コト不可能ニアラサルナリ。

予ハ又空想ノ觀アルニ拘ハラズ參考トシテ茲ニ一ノ計畫ヲ敘フヘシ、浦鹽斯德ヨリ白海及アルハンゲル
スクニ到著センカ爲メニ、西比利亞ノ東部及北部ヲ迂迴スヘキ輸送交通機關ノ創設ニ關シテナリ、從來
試ミタル局部的經驗ハ全部ノ實現ヲ見ルコトヲ得ヘシトノ結論ヲ爲スヲ得タリ。

第十章 白耳義人ニ推獎スヘキ企業

西比利亞ノ金鑛脈ニ關スル吾人ノ説明ハ吾同胞ニ向テ如何ナル程度迄其注意ヲ喚起シ此種問題ノ研究
ニ從事セントスルノ興味ヲ惹起スルモノアラン、從來地方官憲カ外國資本、否ナ出來得ヘク「ンハ」白耳義
資本ヲ以テ、地下ノ富源ヲ採掘スヘキ希望アル旨ヲ吾人ニ發表シタルコトハ一再ニ止マラス。

西比利亞ノ若干重要都會就中ハ「パロフスク」ニ鑛業銀行ヲ創設セントスル計畫ハ興味アル問題ノ一タル
ニ相違ナシ。

西比利亞ノ如何ナル都會ニモ未タ電車ノ設ケ無シ、其之レアルハ唯僅カニ浦潮斯德ノミ、即チ同市ハ十年ノ後市ニ於テ買收經營スヘキ條件ノ下ニ電氣鐵道ノ經營ヲ外國人(グロマドスキイ及ジンメルマンノ兩人)ニ許可シタリ、今年ニ至リ白耳義ノ一會社ハオムスクニ電車鐵道ヲ開設スヘキ商議ニ著手シタリシモ、條件ノ不充分ナルカ爲メニ未タ事業ニ著手セス、然レトモ元來白耳義人ノ此種企業ニ對スル名聲ニ就テハ世ニ定評アルカ故ニ、吾同胞ノ提出セル條件ヲ調査シテ早晚事業ノ著手ヲ見ルニ至ルナラン。

又イルクーツク地方總督ハ白耳義國ノ資本ヲ以テ、イルクーツクヨリボダイボ方面ニ至ル千五百ヴェルスト間ニ電氣鐵道ヲ敷設シ以テレナ地方ノ鑛山開發ニ利セントスルノ希望ヲ有セリ。
水道事業モ亦實ニ有益ナル事業ノ一ナリ、蓋シ今日ニ至ル迄未タ殆ント亞露ノ各都會ニ水道ノ設ケナキハ畢竟西比利亞ニ之レニ關スル適當ノ技師ヲ存セサル爲メナリ、全西比利亞ヲ通シテ専門技術學校ヲ有スルハ唯僅カニ一ノトムスクアルノミ、又全西比利亞ヲ通シテ水道ヲ有スル都會ハ僅カニ一ノハパロフスクアルノミ、而シテ是レスラ其實陸軍工兵隊ノ設計ニ係レルモノニシテ予ハ其他ニハ如何ナル場所ニモ未タ水道ノ設ケアルヲ聞知セサルナリ、現ニ浦潮斯德ノ如キ斯拉日々ノ飲用水ヲ日本ヨリ輸入シ居ル窮狀ノ狀況ナリ、惟フニ水道ノ企業ヲ爲ス者アラハ其者ニ向テ若干年間ハ一定ノ利子保證ヲ許容スルヤ蓋シ疑ナキナリ、其他又西比利亞ニ於テハ如何ナル都會ニモ未タ鋪石セラレタル道路ヲ存セス、

偶之レアリト雖モ、ソハ唯都會中ノ一小街ニ過キス、然ルニ西比利亞ハ到ル所森林ニ富メルカ故ニ、木材ヲ以テ容易ニ都會ノ街衢ヲ鋪道シ得ヘキナリ。

西比利亞内地ニ使用セラル、農具ノ數ハ頗ル巨額ナリ、而シテ其三分ノ二ハ外國殊ニ米國ヨリノ輸入ニ係リ、露國ニテ製造セラル、數ハ僅カニ全體ニ對スル三分ノ一ニ過キサルナリ、左レハ米露間ノ條約破棄ハ米國ヨリノ此種輸入額ヲ著シク減少シ從テ自ラ新タニ製造セサル可ラサルニ至ルヘシ、然ルニ西比利亞ニハ未タ農具ヲ製造スヘキ工場ヲ有セサルナリ。

予ノ知レル範圍内ニ於テハ、此廣大無限、西比利亞領土ニ、チウーモンヲ除キテハ一ノ製紙工場ノ存スル無ク、總テ歐露及芬蘭ヨリノ輸入ニ係レルモノナリ、然レトモ茲ニ注意スヘキ點ハ歐露エカテリンブルグニアル製紙工場ノ供給スル或ル種類ノ紙ハ頗ル廉價ニシテ新聞用紙ノ如キハ「リーヴル」ノ價格カ僅カニ八哥ヲ出テサル事是レナリ、但シ書簡用紙其他良品質ノ紙ニ就テハ競争ノ餘地ヲ存スルモノト思惟ス、故ニ此見地ヨリシテ製紙業ヲ起サントセハ、先ツ西比利亞ノ森林ヲ購買シテ現場ニ製紙工場ヲ建設スルヲ要ス、然ルニ又此事ニ關シテ豫シメ留意セサル可ラサルハ從來已ニ森林ヲ濫伐シ且ツ「トラン」スシベリヤン」鐵道沿線ノ森林ハ其多クハ山火事ノ爲メ曠廢ニ歸シ去リタルカ故ニ、大樹林ヲ發見センニハ鐵道沿線ヲ去ルコト動モスレハ五十キロメートル「位迄内地ニ深入スルノ要アルノ點ナリ、是レニ反シ樺太島ニハ「バルブ」ニ適當ニシテ且ツ良好ナル軟弱質ノ松樹ヲ存シ、其價格ハ西比利亞ニ比シテ廉

價ナルノミナラス、伐木税モ亦高率ナラス、同島内ニテハ一立方「ピエー」ノ「パルプ」ノ價格ハ十二乃至十五哥ノ間ヲ上下シ、而シテ又北部歐洲ノ諸港ニ輸送スルニ、一噸ノ船賃僅カニ三十志ニ過キストハ人ノ吾人ニ保證スルトコロナリ。

白耳義人ハ何故ニ今日迄西比利亞領内ニ於ケル硝子製造所ノ設計問題ヲ等閑ニ附シテ之レカ研究ニ留意セサリシヤ、吾人ノ知レル範圍内ニ於テハ、全西比利亞領内ニ唯一箇所ノ硝子製造所アルノミ、即チ其一ハネルチンスクニ在リ、他ノ一ハストレチンスクノ附近ニ設立セラレタルモノナルカ、二者共ニ重要ナラス、其他又トムスクヲ去ルコト五十乃至六十「ヴェルスト」ノ河畔ニ一製造所アレトモ毫モ活動セス其設立費ニ六萬留ヲ支出シタルモノナルカ、開ク所ニ依レハ二萬五千留ノ代價ニテ之レヲ他ニ賣却セントスルモノ、如シ、而シテ硝子製造ノ原料タル砂ハ工場附近ニ之レヲ求ムルコトヲ得ヘシト云フ。又西比利亞ニ於テハ「セメント」製造工場トシテハ是レ亦僅カニ二箇所アルノミ、其一ハウエルフネウージンスク附近ノブランスキニ、他ノ一ハハバロフスクヨリ離ル、コト六百「ウエルスト」ノスバスキニ設立セラレタリ、然リ而シテ政府ノ工事ニ使用スヘキ「セメント」ハ黑海沿岸ヨリ輸送シ來リ、「パルプ」ノ代價ハ七留ヲ算シ、白國製造品ニ比シテ高價ナリ、然ルニ政府ノ工事ニ對シテハ外國産材料ノ使用ヲ許可セラレサルコトハ世人周知ノ事實ニシテ此點ニ於テハ多少ノ不便ナキニアラスト雖モ、然レトモ又歐露竝ニ西比利亞領内ニ於テ外國人ノ設立シタル工場ノ製造品ハ露國製造品ト看做サレ同一利便ヲ受ルヲ得ヘキナリ。

オムスク總督ハ嘗テ予ニ向テ白國人カ靴ノ製造工場ヲ設立シ得ヘキ有利ノ條件ヲ説明シ呉レタルコトアリ労働階級ノ常用トセル長靴ノ製造工場ハ到ル所ニ存立スレトモ、都會人ノ使用スル靴ノ製造所トシテハ歐亞兩露ヲ通シテ唯一ノ工場ヲ存スルノミ。

太平洋沿岸ニ於ケル漁獲ノ大部分ハ從來適當ノ冷藏設備ナキカ爲メ空シク消滅セリトハ予ノ已ニ言明シタルトコロナリ、惟フニ他日ニコライエフスク及ハバロフスクニ冷藏庫ノ設立ヲ見ルニ至ルヘキハ明カナリ、蓋シ凍冷スヘキ肉類及魚類ノ數量ハ數十萬「ブード」ヲ以テ算スヘキナリ。

其他ニコライエフスク及カムチャツカ沿岸ニ於テ漁獲シタル生魚ヲ歐洲ニ輸送スヘキ冷藏室設備ノ漁船ヲ建造スルコトモ亦有要ノ事業タラスンハアラス、蓋シ冷藏貨車ヲ準備シテ西比利亞鐵道ニ依リ生魚ヲ陸路歐洲ニ輸送センニハ餘リニ多額ノ費用ヲ要スレハナリ、然ルニ今年浦潮斯德ニ開催セラレタル商議會ハ露國ノ鐵道カ日本ノ絹布ニ對シ海路歐洲ニ輸送スル船賃ト競争ヲ有シ得ヘキ程度迄ニ陸路ノ輸送賃率ヲ低下シタルコトヲ記慮スルヲ要ス、然ラハ即チ漁獲物ノ陸路輸送ニ關シテモ亦他日之レト同様ナル協商ノ行ハル、ナキヲ期セサルナリ、現ニ今日ニ於テサハ歐露ニ輸送スヘキ黑龍江ノ漁獲(凍冷シタル)物ニ對シ鐵道賃銀ヲ輕減シ居ルニアラスヤ。

予ハ或ル商人カ冷藏庫ヲ設備セル船舶ノ備船料及春秋ノ二季ニ各七千噸ノ割合ヲ以テ鮭ノ漁撈費ヲ調

查シタル明細書ヲ所有セリ、是ニ依テ判断スルニ今此漁獲物ヲ歐洲ニ輸送シ其販賣ニ依テ得ヘキ純收益ハ多額ナルコト明カニテ優ニ之レカ爲ニ會社ヲ創設スルノ得失ヲ研究スルノ價値アルモノト認ム。此他ニ尙ホ多大ノ利益ヲ得ヘキ企業アリ、ニコライエフスク及カムチャツカ地方ニ漁獲ノ罐詰工場ヲ設立スルコト即チ是レナリ。

「ヂエラチン」原料タル鱈魚カ太平洋沿岸ニ豐富ナルニ拘ハラズ、西比利亞ニハ未タ「ヂエラチン」製造工場ノ設立ヲ見ス、蓋シ此種工業ニ最モ適當ナル場所ハニコウイエフスク及ハバロフスクニ若クモノナカル可シ。

蒸氣製粉場ムラング、ウツアイルハ西比利亞領内到处ニ存在シ、之レニ依テ得ルトコロノ收益少カラスノヴオ、ニコライエフスクニ於ケル製粉場ノ所有者ハ之ニ依テ年額十萬留ノ所得ヲ收メ居タリシカ、近時之レヲ他ニ賣却スルカ若クハ之レヲ擔保ニ供シテ資金ノ融通ヲ得ルコトヲ欲セリ。

白耳義人ハ又西比利亞ニ於テ麥酒ノ釀造ニ從事スルヲ得ヘシ、西比利亞ノ麥酒ハ淡泊ニシテ且ツ風味甚タ良ク、漸次歐露ヨリ輸入セル麥酒ニ代用セラル、ノ傾向ヲ生セリ。

白耳義國ハ諸外國ニ比シテ多額ノ資金ヲ利用シ得ルノ便宜ヲ有シ、且ツ鑛山ノ採掘及以上列舉シタル諸工業ノ創設ヲ爲シ得ヘキ最良ノ條件ヲ具備セル國柄ナリ。

終

